DiMAGE Z2

J 使用説明書

目次

応用撮影編/動画撮影編（続き）

再生編 113

静止画や動画の再生（撮った画像/動画を画面で見る）について説明しています。またメニュー設定で、画像をまとめて消去したり、一定間隔で自動再生させたり、画像のコピーやEメール添付用画像の作成も行なえます。

セットアップ編 148

画面の明るさや表示言語など、このカメラ全般に関するさまざまな設定を変更できます。

パソコンとの接続編 170

パソコンとカメラを付属のUSBケーブルで接続し、カメラ内の画像をパソコンに取り込む(コピーする)方法について説明しています。

プリンタで印刷編・その他......... 188

カメラを付属のUSBケーブルでプリンタに接続し、カメラ内の画像を印刷する方法について説明しています。また、取り扱い上の注意や、手入れと保管のしかたなどについても説明しています。

(右上に続く)

プリンタで印刷編・その他(続き)

(左下からの続き)

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。（左図の場合は発火注意）

⚠警告

電池の取り扱いを誤ると、液漏れによる周囲の汚損や、発熱や破裂による火災やケガの原因となりますので、次のことは必ずお守りください。

- ●指定された電池以外は使わないでください。
- ●電池の極性（＋／－）を逆に入れないでください。
- ●表面の被膜が破れたり、はがれたりした電池は使用しないでください。
- ●電池のショート、分解、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。また金属類と一緒に保管しないでください。
- ●新しい電池と古い電池、メーカーや種類の異なる電池、充電状態の異なる電池を混ぜて使用しないでください。
- ●アルカリ電池は充電しないでください。
- ●充電式電池を充電する場合は、専用の充電器をご使用ください。
- ●万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。

⚠警告

ACアダプターをご使用になる場合は、専用品を表示された電源電圧で正しくお使いください。
表示以外の電源電圧を使用すると、火災や感電の原因となります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き（ACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。
目の近くでフラッシュを発光させると視力障害を起こす原因となります。

⚠警告

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、液晶モニターを見たりしないでください。
転倒や交通事故の原因となります。

風呂場など湿気の多い場所で使用したり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を抜き（ACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
使用を続けると、火災や感電の原因となります。裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにご相談ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。
爆発や火災の原因となります。

ACアダプターをご使用の場合、電源コードに重いものを乗せたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、傷つけたり、加熱、破損および加工したりしないでください。またコンセントから抜くときは、アダプタ本体を持って抜いてください。
コードが傷むと火災や感電の原因となります。コードが傷んだら、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に交換をご依頼ください。

⚠警告

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き（ACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分ご注意ください。
使用を続けると感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

⚠注意

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。
外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

レンズが前方に伸びた状態で、レンズ部分を持たないでください。
カメラの電源を切ると、自動的にレンズが収納されます。手を触れていると、手をはさむ原因となります。

長時間使用される場合は、皮膚を触れたままにしないでください。
本体の温度が高くなり、低温やけどの原因となることがあります。

長時間の使用後は、すぐに電池やカードを取り出さないでください。
電池やカードが熱くなっているため火傷の原因となります。電源を切って温度が下がるまでしばらくお待ちください。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。
発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

液晶モニターを強く押したり、衝撃を与えたりしないでください。
液晶モニターが割れるとケガの原因となり、中の液体に触れると炎症の原因となります。中の液体に触れてしまった場合は、水でよく洗い流してください。万一目に入った場合は、洗い流した後医師にご相談ください。

⚠注意

ACアダプター使用時は、電源プラグは差し込みの奥までしっかりと差し込んでください。

電源プラグが傷ついていたり、差し込みがゆるい場合は使用しないでください。火災や感電の原因となります。

ACアダプターを布や布団で覆ったり、周りに物を置いたりしないでください。

熱により変形して感電や火災の原因となったり、非常時にアダプタが抜けなくなったりします。

お手入れの際や長期間使用しないときは、ACアダプターをコンセントから抜いてください。

火災や感電の原因となります。

ACアダプターを、電子式変圧器（海外旅行用の携帯型変圧器など）を介してコンセントに接続しないでください。

故障や火災の原因となります。

このカメラには、弊社のボディ特性に適合するように設計された弊社製のアクセサリーの使用をおすすめします。他社製品と組み合わせた場合の性能の保証や、それによって生じた事故や故障の補償はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受像機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

はじめに

お買い上げありがとうございます。
ディマージュ Z2は、軽量・コンパクトなボディに光学10倍ズームレンズを搭載した、有効画素数約400万画素のデジタルカメラです。ユニークなスイッチファインダーを採用。快適レスポンスの高速ジェットAFに加えて、動く被写体にもしっかりピントを合わせる動体予測フォーカス制御機能を搭載、決定的瞬間を逃しません。3㎝まで近付いて撮れるスーパーマクロ、過去にさかのぼって画像を記録するシャッターチャンス連続撮影、テレビやムービー並の高画質な動画撮影が可能なハイグレードムービー、撮影した動画から不要部分をカットする動画編集機能など豊富な機能をもちながら、大きく操作しやすいボタンや大きい文字で見やすいボディ表記、ホールディング感のよいグリップで、操作も簡単です。
ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

内容物の確認

お買い上げのパッケージに梱包されているのは以下の通りです。ご確認の上、不備な点がございましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

- カメラ本体（DiMAGE Z2）
- 単3形アルカリ乾電池 4本
- ネックストラップ　NS-DG6000
- USBケーブル　USB-500
- AVケーブル　AVC-400
- DiMAGE Viewer CD-ROM
- 16MB SDメモリーカード
- レンズキャップ　LF-242A
- シューキャップ　SC-1000
- 本体使用説明書
- DiMAGE Viewer 使用説明書（ソフトウェア DiMAGE Viewer 用）
- VideoImpression 2 CD-ROM（Windows®版のみ）
- アフターサービスのご案内
- コニカミノルタからのお知らせ
- 保証書

ユーザー登録について

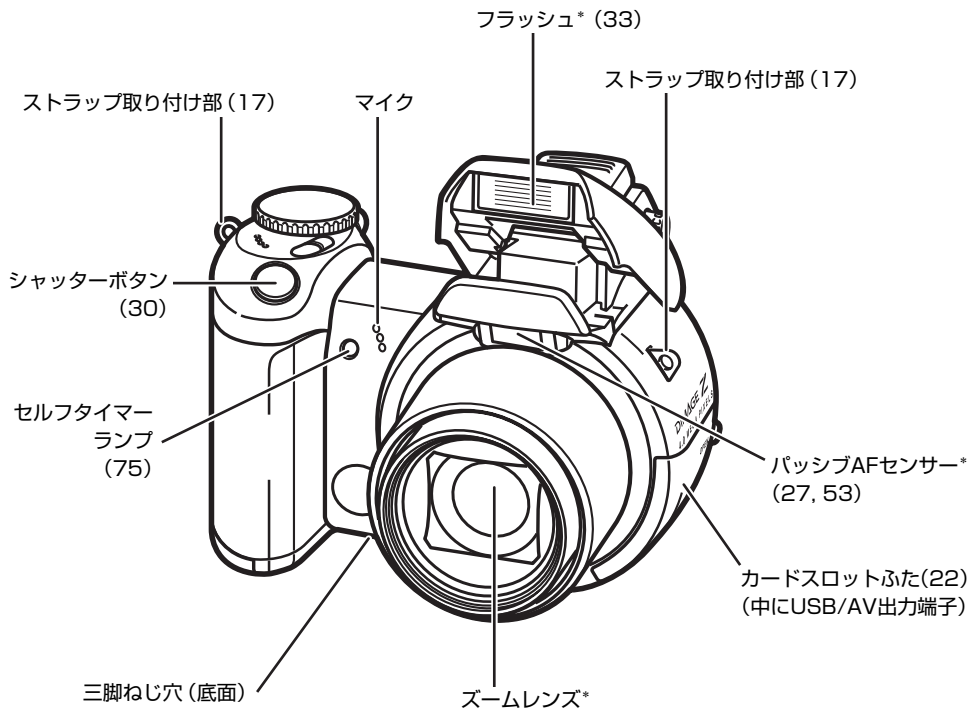
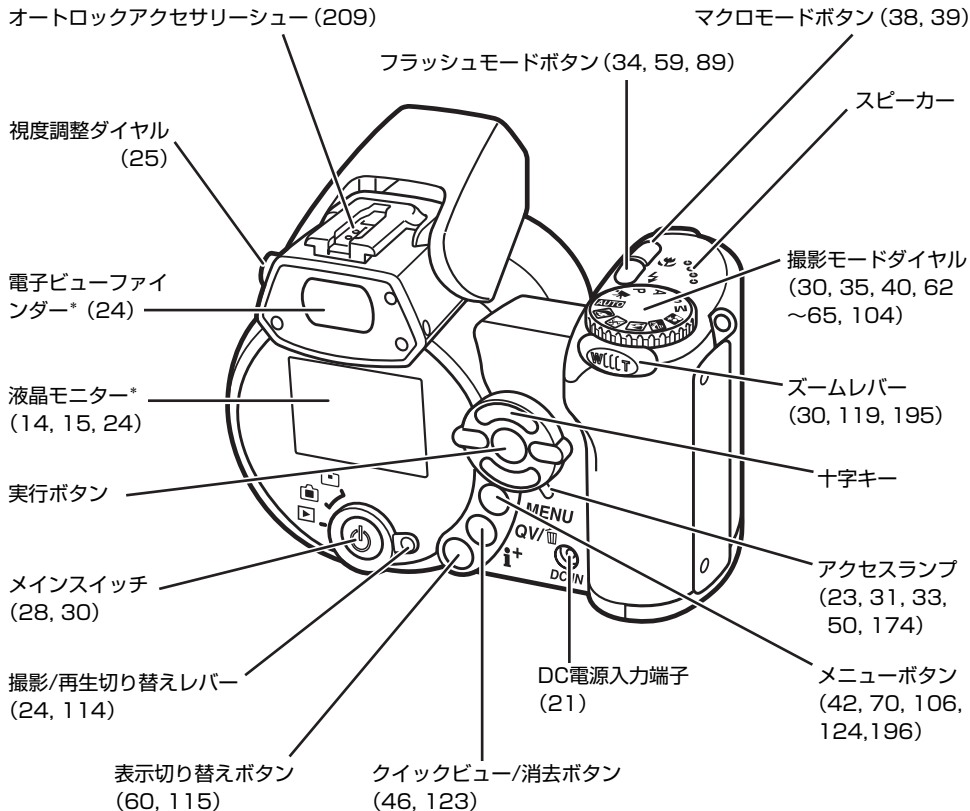
本製品をご使用になる前に、お早めにユーザー登録をお済ませください。同梱されている「コニカミノルタからのお知らせ」に記載の弊社ホームページからオンラインユーザー登録を行っていただけます。

各部の名称

*の付いたところは、直接手で触れないでください。(　)内は参照ページです。

ボディ前面

ボディ背面

オートロックアクセサリーシュー（209）
マクロモードボタン（38, 39）
フラッシュモードボタン（34, 59, 89）
スピーカー
視度調整ダイヤル
（25）
撮影モードダイヤル
（30, 35, 40, 62
～65, 104）
電子ビューファイ
ンダー*（24）
ズームレバー
（30, 119, 195）
液晶モニター*
（14, 15, 24）
十字キー
実行ボタン
MENU
QV/
DC IN
AUTO
アクセスランプ
（23, 31, 33,
50, 174）
メインスイッチ
（28, 30）
撮影/再生切り替えレバー
（24, 114）
DC電源入力端子
（21）
メニューボタン
（42, 70, 106,
124,196）
表示切り替えボタン
（60, 115）
クイックビュー/消去ボタン
（46, 123）

液晶モニター（撮影モード時）

※説明のためすべての表示を点灯させています。
※ファインダー表示の内容は液晶モニターと同じです。

液晶モニター（再生モード、1コマ再生時）

拡大再生（115）

再生モード

画像サイズ（81）

動画画像（120）

画質（83）

電池容量（19）

フォルダ番号（フォルダの通し番号、157）

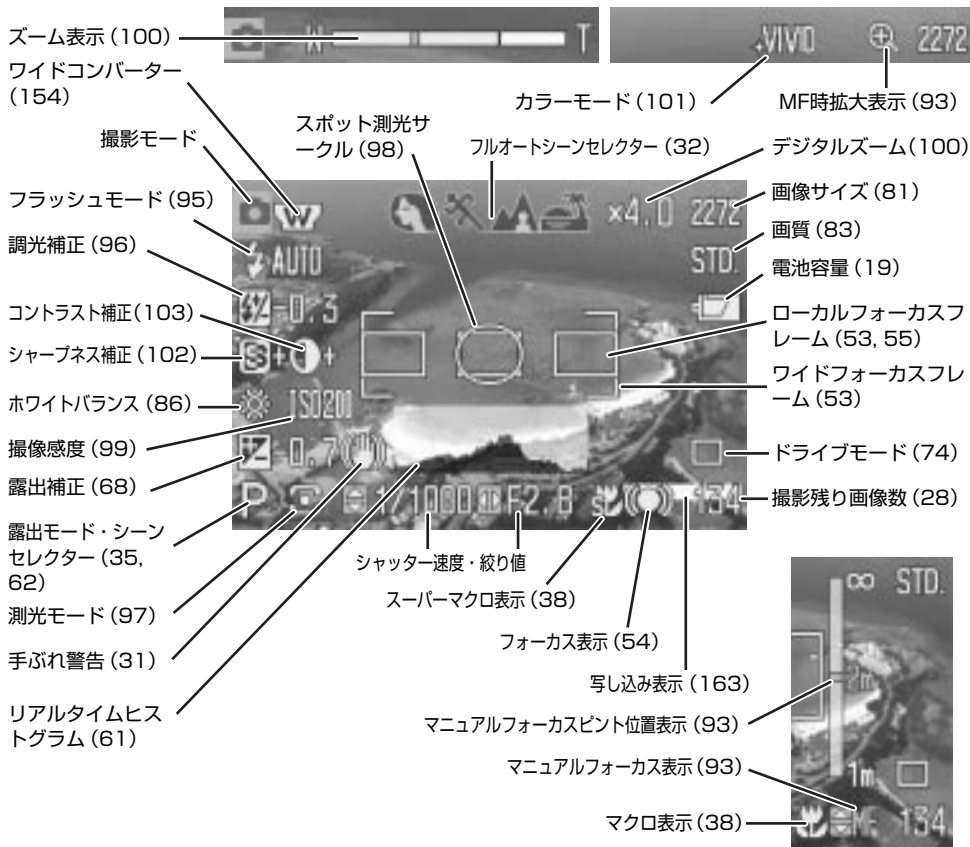
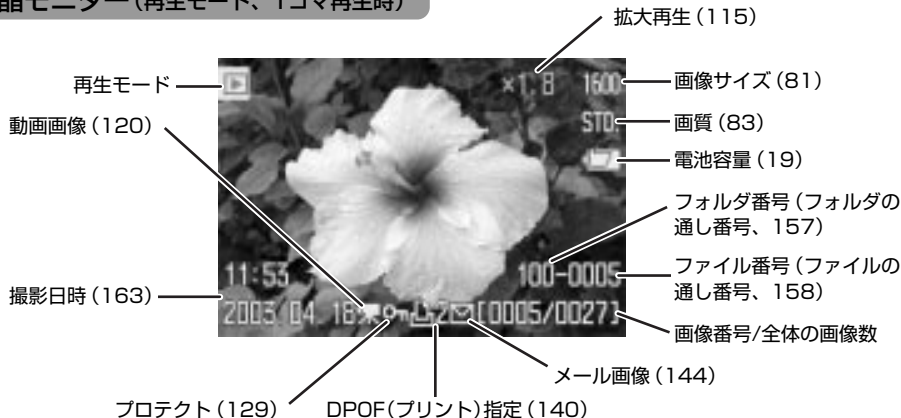
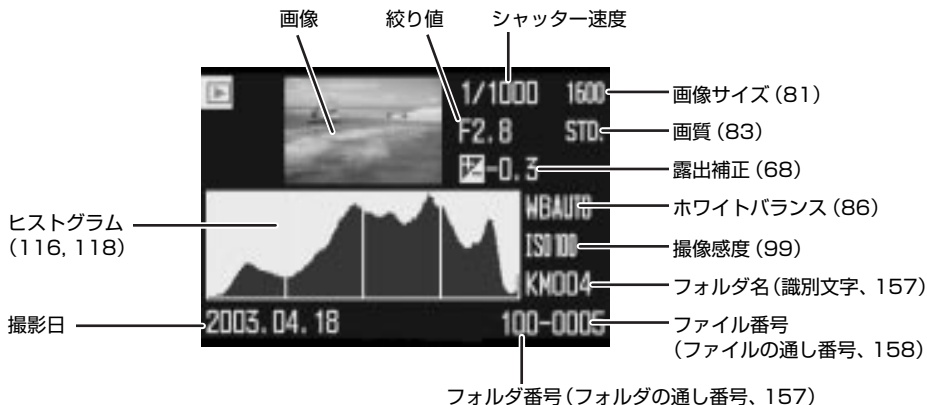
ファイル番号（ファイルの通し番号、158）

撮影日時（163）

画像番号/全体の画像数

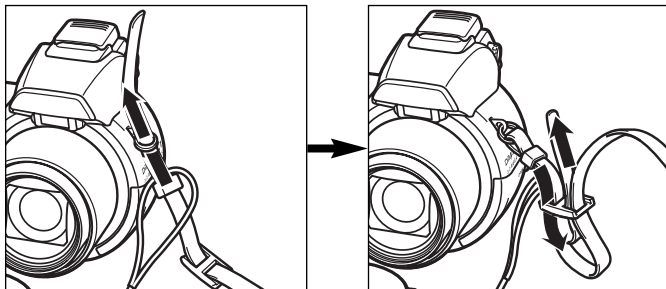
メール画像（144）

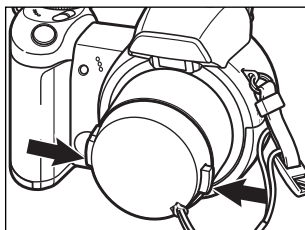
プロテクト（129）

DPOF（プリント）指定（140）

液晶モニター（再生モード、ヒストグラム表示）

準備編

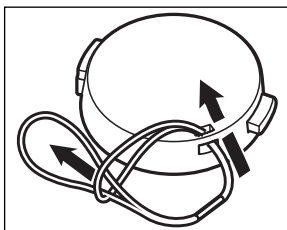
実際にカメラをお使いいただく前の準備や、知っておいていただきたいことについて説明しています。

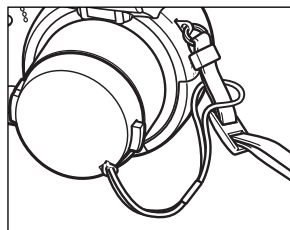
ストラップとレンズキャップ

ストラップを取り付ける

ストラップの先端を取り付け部の輪に通し、図のように取り付けます。

● 反対側も同様に取り付けてください。

レンズキャップ

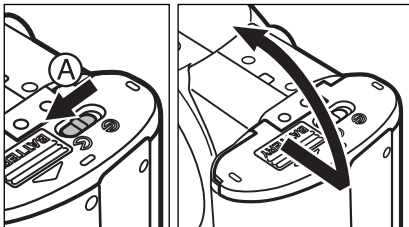
キャップ両横のつまみを図の矢印の方向につまんで取り付け、または、取り外します。

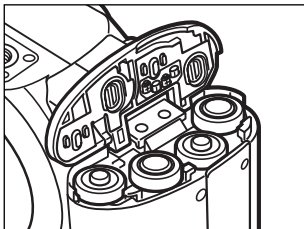
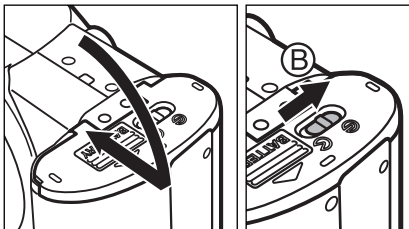
● 撮影後は、レンズキャップを取り付けて保管してください。

レンズキャップは、紛失防止のため、付属のひもを上図 左のように取り付け、輪の部分をストラップに通しておく(上図 右)ことをおすすめします。

● ひもは、使用説明書などが入っている袋に入っています。

電池を入れる

このカメラは、**単3形アルカリ乾電池**、または、**単3形ニッケル水素電池**のいずれかを4本 使用します。

- ニッケル水素電池は、指定の充電器でフル充電してからお使いください。
- 上記以外の電池、および、2004年2月以降に新しく発売された電池については、弊社までお問い合わせください。
- マンガン電池はこのカメラでは使用しないでください。

電池を入れる

1. 電池室ふたロックをAの方向にスライドさせます。

2. 電池室ふたを、矢印の方向にスライドさせて開きます。

3. 電池室ふた裏の＋/－表示にしたがって電池を入れます。

4. 電池室ふたを閉め、矢印の方向にスライドさせます。

- 確実に閉まるまでスライドさせてください。

5. 電池室ふたロックをBの方向にスライドさせます。

「日付/時刻を設定してください」のメッセージが出たときは

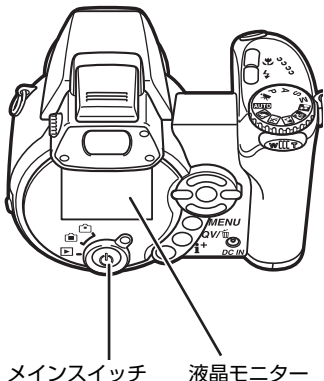
日時の設定が失われています。このようなメッセージが現れたら、日時を再設定してください。[はい] を選んで十字キー中央の実行ボタンを押すと、日時設定画面が現れます → P. 162

電池容量の確認

メインスイッチを押してカメラの電源を入れると、電池の容量が画面に表示されます。

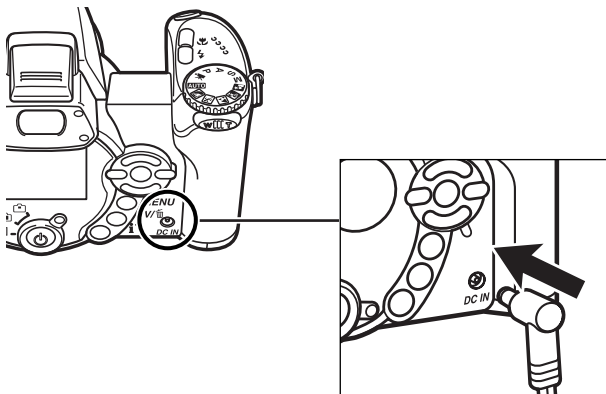
液晶モニター表示	電池容量
白色点灯 （約3秒間）	電池容量は十分です。
白色点灯 （約3秒間）	電池容量が少なくなりました。 ● 節電のため、フラッシュ充電中および発光直後は液晶モニターが消灯します。
赤色点灯	電池の交換をおすすめします。 ● この状態でもまだ撮影はできます。 ● 節電のため、フラッシュ充電中および発光直後は液晶モニターが消灯します。
電池がなくなりました	新しい電池と交換してください。 シャッターは切れません。

- 何も表示されないときは、電池の向き（＋/−）を確認してください。
- 長時間の撮影や再生には、別売のACアダプターAC-1Lの使用をおすすめします。→ 21ページ
- 赤色 点灯時は、UHS連続撮影、シャッターチャンス連写、シャッターチャンスUHS連写、動画撮影はできません。
- 電池容量がなくなったとき（上の表の一番下）は、その電池は再使用せず、すみやかに新しい電池と交換してください。

パワーセーブ、オートパワーオフ

このカメラは、約1分以上何も操作をしないでいると、節電のため低消費電力状態になります（パワーセーブ）。また約30分以上何も操作をしないでいると、自動的に電源が切れます（オートパワーオフ）。

- パワーセーブまでの時間（初期設定は1分）は変更することができます。→ P.153
- パワーセーブまでの時間に関係なく、約1分間何も操作しないでいると、自動的に液晶モニターが消灯します。
- パワーセーブから撮影を再開するには、シャッターボタンを軽く押すなど何らかの操作を行なってください。
- オートパワーオフから撮影を再開するには、再度メインスイッチを押して電源を入れ直してください。

ACアダプター AC-1L（別売）

屋内などAC電源が使える場合は、別売りのACアダプター AC-1Lを使用すると、電池の残りを気にすることなく撮影ができて便利です。

接続のしかた

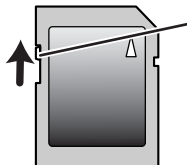
1. メインスイッチを押してカメラの電源を切ります。
2. DC電源入力端子にACアダプターのプラグを接続します（上図）。
3. ACアダプターの電源プラグをコンセントに差し込みます。

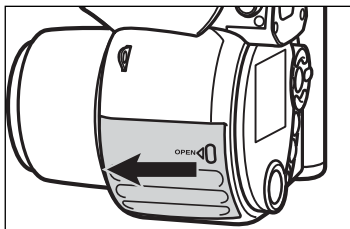
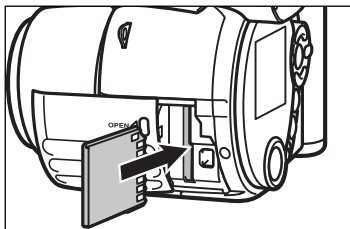
取り外し方

1. メインスイッチを押してカメラの電源を切ります。
2. ACアダプターの電源プラグをコンセントから抜きます。
3. DC電源入力端子からACアダプターのプラグを外します。

カードを入れる

入れ方

画像を記録するには、SDメモリーカードまたはマルチメディアカード（以下カード）が必要です。付属のSDメモリーカードは、そのままこのカメラに入れてお使いいただけます。

ライトプロテクトスイッチ

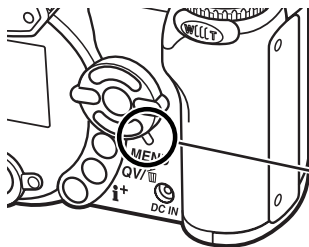
- SDメモリーカードには、ライトプロテクト（書き込み禁止）スイッチがついています。このスイッチを下にスライドさせると、書き込みが禁止されてカード内の画像等を保護することができます。撮影する際には、スイッチを上に上げてください。

1. カードスロットふたを図の方向にスライドして開きます。

2. カードのラベルをカメラの前面側、接点を背面（液晶モニター）側に向け、ラベル上の▲マークを挿入口に向けて、カチッと音がするまで押し込みます。

- 中央をまっすぐに押し込みます。カードの端を押し込まないでください。
- カードが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、カードの向きを確かめて正しく入れ直してください。
- 奥まで入ると、カードはロックされます。

3. ふたを元通り閉めます。

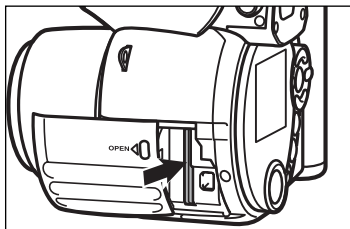
● 閉まらない場合は、下記の要領でカードを一度押し込んでから取り出し、向きを確かめて正しく入れ直してください。

● カードを入れないまま撮影しようとすると、「カードが入っていません」というメッセージが現れます。（この状態でもシャッターは切れますが、画像は撮影されません。撮影時はかならずカメラにカードを入れてください。）
● マルチメディアカードを使用した場合、SDメモリーカードと比べて撮影・再生時の動作応答時間がかなり長くなります。
● マルチメディアカード使用時に、液晶モニターに「- - -」が現れたり、「このカードは使えません」というメッセージが表示される場合は、カードの上下や裏表を逆に入れていないかを確認してください。

取り出し方

アクセスランプが赤く点滅している間は、カードを取り出さないでください。カード内のデータが破損する原因となります。

1. カメラの電源が切れていることを確認後、左ページカードの入れ方の手順1.と同じ要領で、カードスロットふたを開きます。

2. カードをカチッと音がするまで中に押し込みます。
● ロックが外れ、カードが少し出てきます。

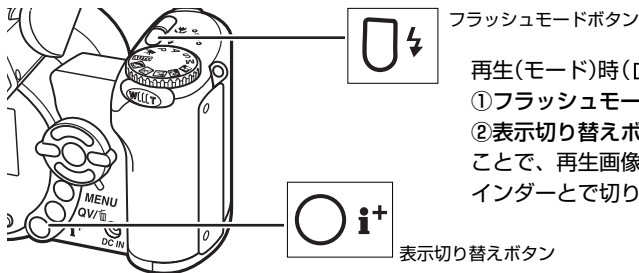
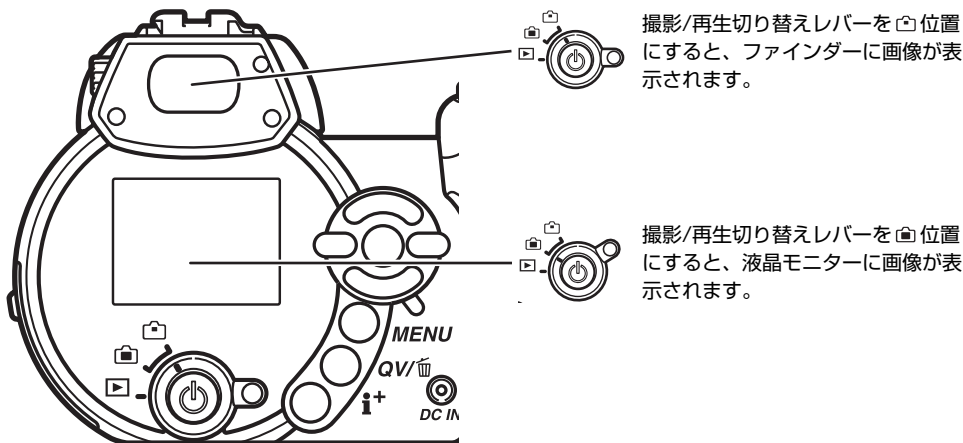
3. カードを取り出し、ふたを元通り閉めます。

スイッチファインダー

このカメラは、液晶モニター表示と電子ビューファインダー(以後“ファインダー”と表記します)表示を1つの表示装置で兼用して、スイッチで切り替える機構(スイッチファインダー)を採用しています。液晶モニターに表示される内容(画像)とファインダーのそれとは常に同じものです。

● 液晶モニターとファインダーとを同時に表示させることはできません。

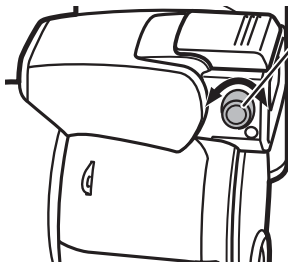
撮影/再生切り替えレバーを ◘ 位置にすると、ファインダーに画像が表示されます。

撮影/再生切り替えレバーを ◙ 位置にすると、液晶モニターに画像が表示されます。

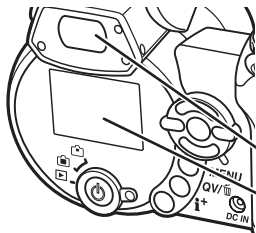
再生(モード)時(▶)は、
①フラッシュモードボタンを押したまま、
②表示切り替えボタンを約1秒間押し続ける
ことで、再生画像の表示が液晶モニターとファインダーとで切り替わります。

ファインダーの視度調整

近視等によりファインダーの像がはっきり見えないときは、視度を調整して見やすくすることができます。

● ファインダーのみに有効です。液晶モニターの像には影響しません。

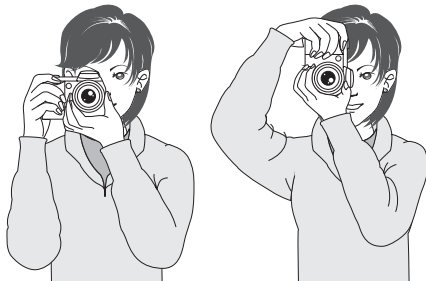
1. 撮影/再生切り替えレバーを 位置にしてカメラの電源を入れ、ファインダーに画像や数値、絵記号などを表示させます。

2. ファインダーをのぞいて、表示されている数値等がはっきりと見えるように、視度調整ダイヤルを回します。

このカメラはモニターを常に見やすくするために、被写体の輝度に応じて絞りのサイズを自動的に変化させています。その際に作動音が発生しますが、これは故障ではありません。

カメラを構える

撮影される画像は、ファインダー（撮影/再生切り替えレバー 位置時）、または、液晶モニター（撮影/再生切り替えレバー 位置時）に表示されます。カメラが少しでも動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。

ファインダー

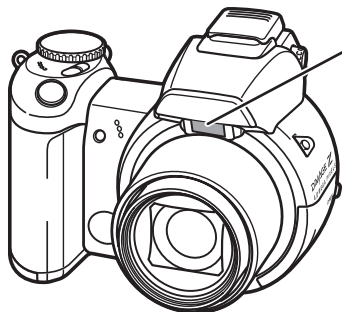
液晶モニター

ファインダーを見て撮影する

ファインダーをのぞいて撮影すると、カメラをしっかり構えることができ、手ぶれが起こりにくくなります。

- 右手でカメラのグリップを持ち、脇を閉め、左手でレンズの下側を持って支えます。
- 片足を軽く踏みだし、上半身を安定させます。壁にもたれたり、机などに肘をついても効果があります。
- カメラ縦位置で構えるときは、（左手の親指で）パッシブAFセンサーを覆わないよう注意してください。
- 暗い場所でフラッシュを使わずに撮影する場合や、望遠側で撮影する場合は、手ぶれが起こりやすくなります。三脚などにカメラを固定して撮影することをおすすめします。

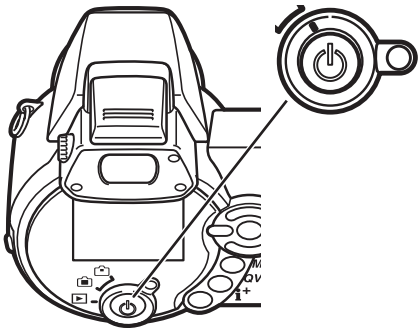
液晶モニターを見て撮影する

基本的な構え方は、ファインダーを見て撮影する場合と同じです。手ぶれが起こりやすいので、ぶれないようにカメラをしっかり構えて撮影してください。

パッシブAFセンサーについて

パッシブAFセンサー

このカメラは、AF（オートフォーカス）の性能を向上させるため、パッシブAFセンサーを搭載しています。
カメラを構えるときには、指やストラップ等でこのパッシブAFセンサーを覆ってしまわないようにしてください。

特にカメラ縦位置で構える際は、レンズを持つ左手の親指がこのセンサーの近くに来ますので、注意が必要です。

撮影できる画像数

カードを入れ、メインスイッチを押してカメラの電源を入れると、画面右下に撮影残り画像数（現在の設定で撮影を続けると、後何枚撮影できるか）が表示されます。

1枚のカードに記録できる画像数は、カードの容量や、カメラで設定された画像サイズおよび画質によって異なります。例として、付属の16MBのSDメモリーカードで初期設定で撮影する場合、記録できる画像数は約14枚です（画像サイズ2272×1704、画質スタンダード時）。

- 画像サイズ･画質を変更した場合、また動画を撮影した場合は、撮影できる画像数は大きく変わります。
  ※詳細は →P.84、85

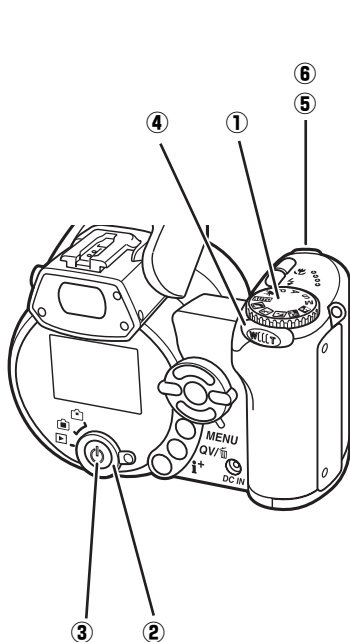
- 液晶モニターに赤色で000が表示されたときは、カードがいっぱいです。カードを交換するか、カード内の画像を消去してください。画像サイズや画質を変更すると撮影できることもあります。

- ファイルサイズは被写体によって異なるため、撮影シーンによっては、撮影後に撮影残り画像数表示が変化しない場合もあります。

基本編

基本編をお読みいただければ、撮影（撮る）──再生（見る）──PC（パソコンとつないで画像を取り込む）の一連の操作について、一通りお使いいただけるよう、基本的な使い方に絞って説明してあります。
このカメラを初めてお使いになる場合や、とりあえず使ってみたいという方も、この基本編だけはお読みください。

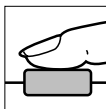
フルオートで撮ってみましょう

すべての設定をカメラまかせのフルオート(全自動)で気軽に撮影しましょう。

①ダイヤルを AUTO に合わせます。

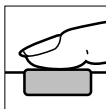
②レバーを または に合わせます。

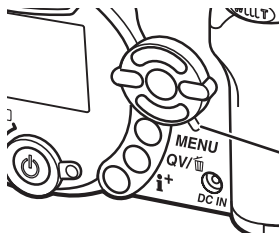
③メインスイッチを押します。

④ズームレバーで写したいものの大きさを決めます。

● レバーを右(T側)へ動かすと大きく写り、左(W側)へ動かすと広い範囲が写ります。

⑤写したいものに[　　]を合わせて、シャッターボタンを半押しします。

● シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。そこまで押すことを「半押し」と呼びます。

● フルオートシーンセレクター機能が働いて、シーンを選択します。→ P.32

⑥ピントが合ったら、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● ピントが合うと、画面右下に白い ○ (フォーカス表示)が点灯します。

- 撮影された画像が自動的にカードに記録(保存)されます。書き込み中はアクセスランプが赤色ですばやく点滅しますので、その間はカードや電池を抜かないでください。

- カメラから、ズーム広角側で約50㎝以上、望遠側で2㍍以上離れたものにピントが合います。それより近くを撮影する場合は、スーパーマクロ撮影、または、マクロ撮影を行なってください。→ P.38、39
- 撮影後シャッターボタンから指を離さずにそのまま押し続けていると、押している間撮影した画像が液晶モニターに表示されます。

※撮影後常に一定の間表示させるには → アフタービュー (P.153)

- シャッターボタンを半押ししたときに現れる表示の意味は以下の通りです。

液晶モニター下部	状況
白色 ○ 点灯	ピントが合って固定されています。撮影できます。
赤色 ● 点灯	ピントが合わない、または撮りたいものに近づき過ぎています。撮影はできます。
(手ぶれマーク)	シャッター速度が遅くなっています。 手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。

- 撮影後は、メインスイッチを押して電源を切ってください。

ピント合わせの詳細については ☞ 53ページ

近くのものを撮るには ☞ 38、39ページ

撮影モードダイヤル AUTO 位置では、画面の上側に撮影場面を表す絵表示が並びます。そのまま撮影すると、カメラが撮影場面を判断し、自動的にその場にふさわしい設定が行われます（フルオートシーンセレクター)。

- フルオートシーンセレクターの機能が働かないようにすることもできます。→ 44ページ
- 撮影者が自分で目的のシーンを選ぶこともできます。→ 35ページ

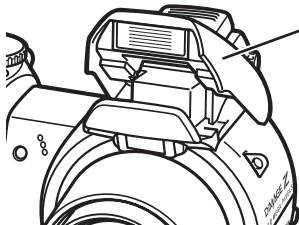
フルオートシーンセレクター

シャッターボタンを半押しすると、レンズの焦点距離や被写体までの距離などからカメラが撮影場面を判断し、その場面にふさわしい設定が自動的に行われます。

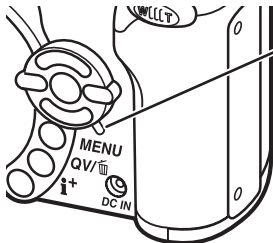
- 半押しすると、カメラが選んだ場面が液晶モニターに表示されます。
- どの場面にも当てはまらなかった場合は、何も表示されず、スナップ撮影(通常のプログラム撮影)になります。

フラッシュの光り方を変えるには ☞ 34ページ

フラッシュを発光させないようにするには ☞ 33ページ

フラッシュを使ってみましょう

フラッシュを使うときは、内蔵フラッシュを手で上げてください。内蔵フラッシュが上がっているときに、フラッシュモードボタンを押すと、フラッシュの光り方を変えることができます。

フラッシュを発光させないときは、内蔵フラッシュを手で押し下げてください。

フラッシュ表示

フラッシュ充電中はアクセスランプがすばやくオレンジ色で点滅します。
充電が完了すると、アクセスランプの点滅が止まります。充電が完了するのを待って撮影してください。

フラッシュ光が撮りたいものに届いたときは、撮影後、画面左上に OK が点灯します。

※届く距離は → 次ページ

● このカメラではフラッシュの発光量を正確に決めるため、フラッシュ発光時には撮影の直前に一度フラッシュが発光します（プリ発光）。よって本発光と合わせてフラッシュが2回続けて発光します。

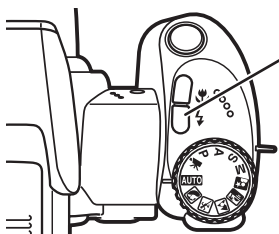
フラッシュ光の届く距離

フラッシュの光が届く範囲には限度があります。最広角側では6.0メートル、最望遠側では4.5メートルを目安に撮影してください（撮像感度AUTO時）。

● 撮像感度を変更すると、フラッシュ光の届く距離も変わります。→ P.99

広角側：6.0メートル
望遠側：4.5メートル

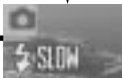
夜景など暗い場合は、フラッシュが発光しても遠くの景色は写りません。

フラッシュの光り方を変えるには

内蔵フラッシュが上がっているときに、フラッシュモードボタンを押すと、フラッシュの光り方を変えることができます。

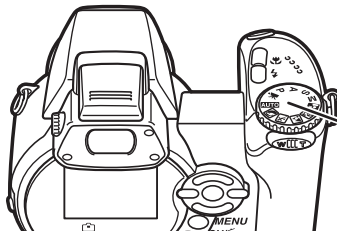
フラッシュモードボタンを押すごとに、次の順序でフラッシュの光り方が変わります。

暗いときなど必要なとき自動的に光ります。（自動発光）

人の目が赤く写るのを和らげます。必要なとき自動的に光ります。（赤目軽減自動発光）

必ず光ります。（強制発光）

夜景を背景にした人物撮影で、人も背景もきれいに写るように光ります（スローシンクロ）。

シーンセレクターを使ってみましょう

目的のシーンを選ぶ

撮影者が自分で目的の撮影シーンを選ぶことができます。ポートレート、スポーツ、風景、夕景、夜景ポートレート・夜景の5つのシーンから選べます。

撮影モードダイヤルを回して、撮影したい画面の絵表示を選びます。

● 液晶モニター左下にも同じ絵表示が現れます。

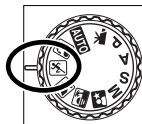
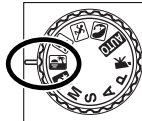
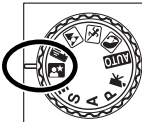
ポートレート

スポーツ

風景

夕景

夜景ポートレート・夜景

● 選んだ撮影シーンに応じてカメラの設定が自動的に行われます。そのため、選んだシーンによっては撮影者が設定を変更できない機能があります。

ポートレート

人物を美しく引き立たせ、人の肌をなめらかに再現します。

- 背景をよりぼかすには、レンズの望遠側の方が効果があります。

スポーツ

速く動いているものでもぶれにくいように、またやや遠いところにある被写体をくっきりと描写します。

- このモードでは、動く被写体にピントを合わせやすくするため、シャッターボタンを半押ししなくても常にピント位置が調整され続けます（フルタイムAF、→ P.94）。またシャッターボタンを半押しすると動いているものにピントを合わせ続けます（コンティニュアスAF、→ P.91）。フォーカスロック（→ P.56）されません。
- フラッシュ光が届かない場合は、フラッシュを押し下げて、フラッシュが光らないようにしてください。
  ※フラッシュ光の届く距離 → P.34

風景

色は鮮やかに、輪郭はくっきりと描写します。全体的にピントが合って見えるように再現します。

- フラッシュを押し下げて、フラッシュ発光禁止で撮影することをおすすめします。
- 被写体が暗いときはシャッター速度が遅くなります。液晶モニターに ((🖐)) が現れたときは、手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。

夕景

夕焼けの赤さを美しく描写することができます。夕景を背景とした人物撮影では、両者をバランスよく再現します。

- 人物のいない夕景のみの場合は、フラッシュを押し下げて、フラッシュ発光禁止で撮影することをおすすめします。
- シャッター速度が遅くなります。液晶モニターに が現れたときは、手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。
- レンズを長時間太陽に向けたまま放置しないでください。CCD（撮像素子）を傷める原因となります。やむを得ず置く場合はレンズキャップを取り付けてください。

夜景ポートレート・夜景

黒をしっかりと再現し、明かりのない暗い部分は黒く、明るい部分は明るく写し出して、美しい夜景を描写します。夜景を背景とした人物撮影では、両者をバランスよく再現します。

- 人物のいない夜景のみの場合は、フラッシュを押し下げて、フラッシュ発光禁止で撮影することをおすすめします。
- シャッター速度が遅くなります。液晶モニターに が現れたときは、手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。また夜景ポートレート撮影の場合、撮影される人物が動くと写真もぶれますので、動かないように注意してあげてください。

近づいて大きく撮ってみましょう（スーパーマクロ・マクロ）

このカメラは、ズーム広角（W）側では50㎝まで、ズーム望遠（T）側では2㍍まで近づいて撮ることができます。スーパーマクロモードやマクロモードにすると、さらに近づいて大きく撮ることができます。

● 38ページ、39ページに記載の撮影距離は、いずれも鏡胴先端からの値です。

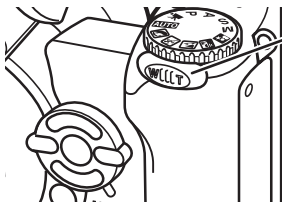
マクロモードボタンを押すごとに、以下の順でマクロ機能が切り替わります。

マクロモード

スーパーマクロモード

マクロ機能解除

マクロモード

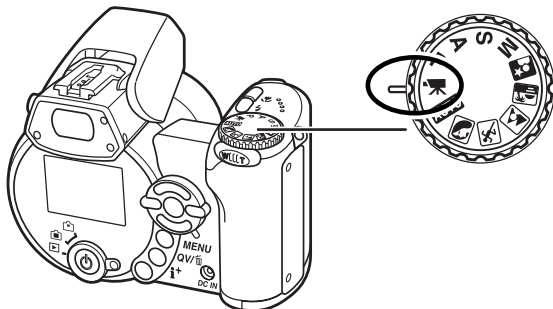
ズーム広角(W)側では7㎝まで、ズーム望遠(T)側では1.2㍍まで近づいて撮ることができます。
ズーム広角(W)側で横8.9㎝×縦6.5㎝のものを、ズーム望遠(T)側で横13.8㎝×縦10.3㎝のものを、それぞれほぼ画面いっぱいに撮ることができます。

● ズーム広角(W)側で7㎝～1㍍のものに、ズーム望遠(T)側で1.2㍍～2.5㍍のものに、ピントが合います。

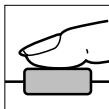
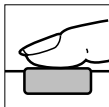
スーパーマクロモード

3㎝まで近づいて撮ることができます。横39㎜×縦28㎜のものをほぼ画面いっぱいに撮ることができます。

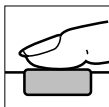
● レンズが11.1㎜(35㎜換算で67.8㎜)位置まで自動でズームし、そこで固定されます。
● 3㎝～1㍍のものにピントが合います。

動画(ムービー)を撮ってみましょう

カードの容量がなくなるまで連続して動画撮影ができます。
画像サイズやフレームレート、光学ズームのあり/なし、動画撮影中のAFあり/なしは、メニュー画面で変更できます。詳しくは → P.106〜

1. 撮影モードダイヤルを 🎥 に合わせます。

● 液晶モニター画面右上に画像サイズとフレームレート、右下に撮影可能な残り時間の目安が表示されます。

2. シャッターボタンを半押しします。

● ピントが合うと、画面右下に白い ○(フォーカス表示)が点灯します。

3. そのままシャッターボタンを押し込んで動画撮影を開始します。

● 撮影中は ●Rec が表示され、残り時間が減っていきます。

4. 撮影を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

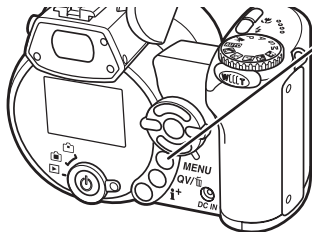
● 残り時間が0になったときは、シャッターボタンを再度押さなくても自動的に撮影が終了します。

●カードへの記録速度の関係上、カードによっては、カード容量に残りがあっても途中で撮影が終了してしまうことがあります。データ転送速度10MB/秒以上のSDメモリーカードのご使用をおすすめします。
●電池の容量が少ないとき(画面に赤色の[電池マーク]が点灯している場合)は、動画撮影はできません。

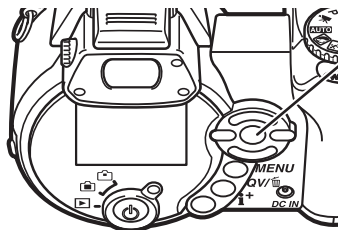
●撮影した動画は、再生モード(▶)で十字キー中央の実行ボタンを押すと再生されます。

十字キー中央の実行ボタンで再生

●再生中の動画の1コマを静止画像として(切り出して)保存することができます。詳細は → P.121
●撮影した動画の不要な部分をカットすることができます。詳細は → P.131

メニューで設定を変えてみましょう

撮影モードダイヤル AUTO 位置でメニューボタンを押すと、以下のメニュー画面が現れます。

1	SETUP
ドライブモード	1コマ撮影
画像サイズ	2272×1704
画質	スタンダード
オートシーンセレクター	ON
デジタルズーム	なし
	MENU

メニュー設定のしかた

メニューの設定は、上下左右のキーと中央の実行ボタンで行ないます。

1. 上下のキーで、項目(メニュー画面の左側に表示されているもの)の中から設定したいものを選びます。

1	SETUP
ドライブモード	1コマ撮影
画像サイズ	2272×1704
画質	スタンダード
オートシーンセレクター	ON
デジタルズーム	なし
	MENU

2. 右のキーを押します。選ぶことのできる内容一覧が現れます。

3. 上下のキーで、内容一覧から設定したいものを選びます。

4. 中央の実行キーを押して決定します。

5. メニューボタンを押してメニュー画面を閉じます。

メニューで設定を変えてみましょう（続き）

撮影モードダイヤルが AUTO 位置のときの設定内容一覧は、以下の通りです。[網掛け]は初期設定（このカメラをご購入後初めてお使いになる際にあらかじめ選ばれているもの）です。

ドライブモード	1コマ撮影
	セルフタイマー
	連続撮影
	シャッターチャンス連写
	ブラケット撮影

通常の「**1コマ撮影**」、撮影者も一緒に写れる「**セルフタイマー**」、シャッターボタンを押している間続けて撮れる「**連続撮影**」、シャッターボタンを押している間連続して撮影を続け、シャッターボタンを離したときからさかのぼって記録する「**シャッターチャンス連写**」、露出をずらしながら3コマ続けて撮る「**ブラケット撮影**」が選べます。

☞ 詳しくは74ページ

画像サイズ	2272×1704
	1600×1200
	1280×960
	640×480

パソコンに取り込んで編集したり大きくプリントしたいときに適した「**2272×1704**」から、Eメール添付用やインターネットのホームページ用の画像として最適な「**640×480**」まで、4通りのサイズを選べます。

☞ 詳しくは81ページ

画質	ファイン
	スタンダード
	エコノミー

圧縮率がもっとも小さく画像を加工する場合などに適した「**ファイン**」、圧縮率が一番大きくEメール添付用の画像などに適した「**エコノミー**」、その中間の「**スタンダード**」の3通りの画質を選べます。

☞ 詳しくは83ページ

オートシーンセレクター	ON
	OFF

カメラが自動的に撮影場面を判断して、その場面にふさわしい設定になるフルオートシーンセレクターの機能を「**ON（使う）**」か「**OFF（使わない）**」かを選べます。

☞ 詳しくは32ページ

デジタルズーム	あり
	なし

光学ズームでもっとも望遠側にレンズをズームさせた後に、さらに引き続いて4倍デジタルズーム機能の「**あり**」か「**なし**」かを選べます。

☞ 詳しくは100ページ

撮影モードダイヤルがシーンセレクター位置（、、、、位置）のときの設定内容一覧は、以下の通りです。　　　　　　は初期設定（このカメラをご購入後初めてお使いになる際にあらかじめ選ばれているもの）です。

ドライブモード	1コマ撮影
	セルフタイマー
	連続撮影
	シャッターチャンス連写
	ブラケット撮影

通常の「**1コマ撮影**」、撮影者も一緒に写れる「**セルフタイマー**」、シャッターボタンを押している間続けて撮れる「**連続撮影**」、シャッターボタンを押している間連続して撮影を続け、シャッターボタンを離したときからさかのぼって記録する「**シャッターチャンス連写**」、露出をずらしながら3コマ続けて撮る「**ブラケット撮影**」が選べます。

☞ 詳しくは74ページ

画像サイズ	2272×1704
	1600×1200
	1280×960
	640×480

パソコンに取り込んで編集したり大きくプリントしたいときに適した「**2272×1704**」から、Eメール添付用やインターネットのホームページ用の画像として最適な「**640×480**」まで、4通りのサイズを選べます。

☞ 詳しくは81ページ

画質	ファイン
	スタンダード
	エコノミー

圧縮率がもっとも小さく画像を加工する場合などに適した「**ファイン**」、圧縮率が一番大きくEメール添付用の画像などに適した「**エコノミー**」、その中間の「**スタンダード**」の3通りの画質を選べます。

☞ 詳しくは83ページ

フォーカスモード	オートフォーカス
	マニュアルフォーカス

ピント合わせの方法として、「**オートフォーカス**」か「**マニュアルフォーカス**（手動によるピント合わせ）」かを選べます。

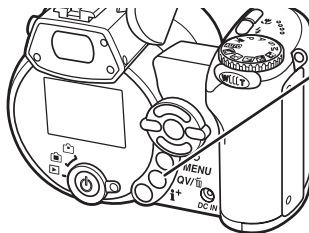
☞ 詳しくは91ページ

デジタルズーム	あり
	なし

光学ズームでもっとも望遠側にレンズをズームさせた後に、さらに引き続いて4倍デジタルズーム機能の「**あり**」か「**なし**」かを選べます。

☞ 詳しくは100ページ

撮った画像を再生してみましょう（クイックビュー）

QV/🗑

クイックビュー/消去ボタンを押すと、どんな画像が撮れたかすぐに確認できます。また、その画像が気に入らなければすぐに消去することもできます。

クイックビュー/消去ボタンを押すと、最後に撮った画像が表示されます。

左右のキーでその前後(に撮った)画像が見られます。

シャッターボタンを半押しすると、撮影画面にもどります。

QV/🗑

もう一度クイックビュー/消去ボタンを押すと、以下の画面が現れます。

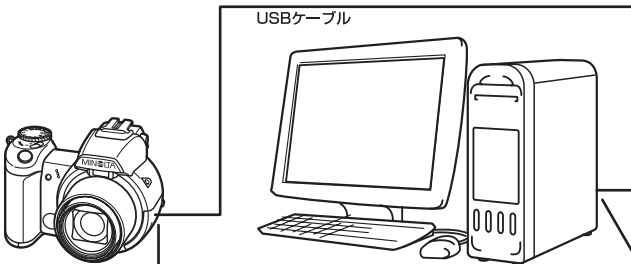
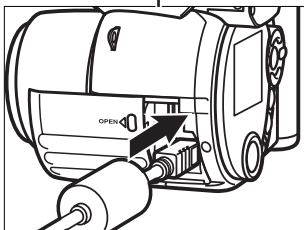
左キーで［はい］を選んで、

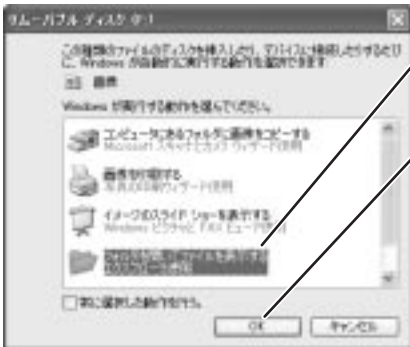
中央の実行ボタンを押すと、画像が消去されます。

再生モード（撮影/再生切り替えレバー▶位置）では、画像をまとめて消去したり、誤って消さないように保護（プロテクト）することができます。また、動画の不要部分をカットできる動画編集、撮った画像を次々と自動で再生するスライドショー、Eメール添付用画像の作成など、多彩な機能が楽しめます。

詳細は→P.114〜

パソコンとつないで画像ファイルをコピー・保存してみましょう

パソコンとカメラの電源を入れて、付属のUSBケーブルでつなぎます。

※ここの説明は Windows®XP (Professional, Home Edition) 使用時の例です。その他の、Windows®2000 Professional/Me/98 や Mac OS をお使いの方は → P.176～

←カードスロットふたを開け、小さいほうのコネクタをUSB端子に奥まで確実に差し込みます。
入らないときは、端子とコネクタとの形状が合っているか、および、コネクタ上の▶マークが液晶モニター側になっているかを確認の上、再度差し込んでください。

大きいほうのコネクタをパソコン本体のUSBポートに差し込みます。

①パソコンに左の画面が現れますので、[フォルダを開いてファイルを表示する] を選び、[OK] をクリックします。

- この画面が現れないときは、画面左下の [スタート] → [マイ コンピュータ] → [リムーバブルディスク] を開いてください。

(次ページに続く ☞)

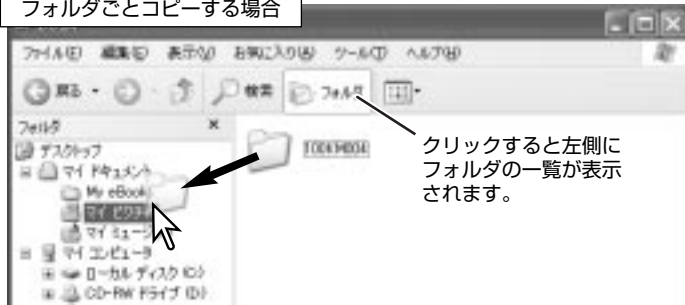
② [DCIM] フォルダをダブルクリックして開きます。

- リムーバブルディスクの後のアルファベット(左図の例ではF:)は、ご使用のパソコンによって異なります。

③ [100KM004] 等のフォルダをダブルクリックして開きます。

- フォルダ名の初期設定は [100KM004] です。カメラの操作で、別の名前のフォルダも表示されることがあります。
- フォルダを開けると、[PICT0001] 等の画像ファイルが表示されます。

④保存したいフォルダ、または、ファイルを、パソコンにコピーします。

- フォルダごとコピーする場合は、[100KM004] 等のフォルダを、まるごと [マイ ドキュメント] [マイ ピクチャ] 等にコピーします。

[100KM004] を [マイ ピクチャ] にコピーする例

クリックすると左側にフォルダの一覧が表示されます。

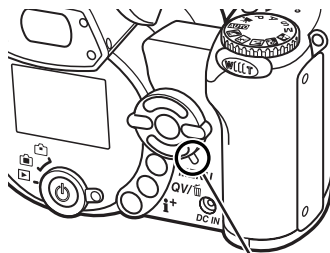
[PICT0001.JPG] を [マイ ピクチャ] にコピーする例

- 画像の見え方は、パソコンの設定によって異なります。

- コピー先のフォルダに同じ名前のファイルが存在すると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめコピー先のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。

必要な画像をパソコンにコピーした後は、以下の手順でUSB接続を解除してください。

アクセスランプ

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. タスクバー（パソコンの画面右下）に表示されている[ハードウェアの安全な取り外し] または [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] のアイコンを左クリックします。

3. [USB大容量記憶装置デバイスを安全に取り外します（または停止します）] または [USBディスクの停止] を左クリックします。

4. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、☒または [OK] をクリックします。
5. USBケーブルを取り外します。

パソコンで画像を開く

1. 画像を保存したフォルダ（マイ ピクチャなど）をダブルクリックして開きます。

2. 見たい画像をダブルクリックします。

● 各ファイルに関連付けされたソフトウェアが自動的に起動します。起動しない場合や意図しないソフトウェアが起動した場合は、先にソフトウェアを起動させ、その後［ファイル］→［開く］を選んでください。

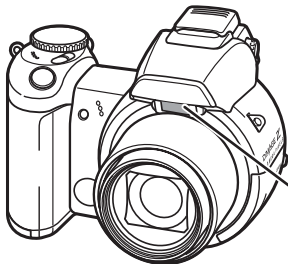
USB接続できないときは

本書185～187ページに記載の方法でUSBドライバをいったん削除（アンインストール）し、その後再度接続してください。

応用撮影編
動画撮影編

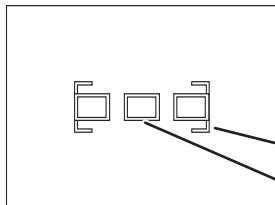
このカメラのすべての撮影機能について説明しています。詳しく知りたい操作方法に応じて、必要な箇所をお読みください。

ピント合わせ（詳細）

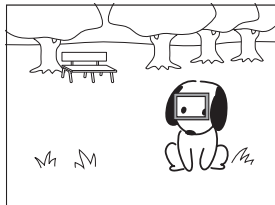
ハイブリッドAF

このカメラは、「外光パッシブ方式」と「映像AF方式」という2つの方式を併用することで、AF性能を向上させています（ハイブリッドAF）。まずパッシブAFセンサーで被写体までの距離を検出し（外光パッシブ方式）、その近くまでレンズを動かします。続けて映像AF方式で、ピント位置付近での細かなピント合わせを行ないます。

パッシブAFセンサー

● 撮影のときには、指やストラップなどでパッシブAFセンサーを覆ってしまわないようご注意ください。

フォーカスフレーム

ワイドフォーカスフレーム［　］の中には、ピントを合わせるためのセンサー（ローカルフォーカスフレーム）が3つあります。シャッターボタンを半押しすると、この3つのセンサーのいずれかが働き、自動的にピント合わせが行われます。

ワイドフォーカスフレーム

ローカルフォーカスフレーム（センサー）

シャッターボタンを半押しすると、カメラが被写体を判別し、その部分のローカルフォーカスフレームによりピントが合わせが行われます。ピント合わせに使われたローカルフォーカスフレームが赤色で表示されます（フォーカスモードが［ワンショットAF］の場合）。

● 上記の3つのローカルフォーカスフレームのうち、任意のフレームを選ぶこともできます。→ P.55

● フォーカスモードが［コンティニュアスAF］の場合（→ P.91）は、シャッターボタン半押しの間フォーカスフレームが赤色で表示されます。

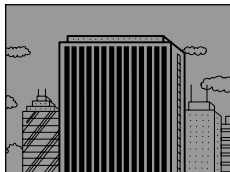
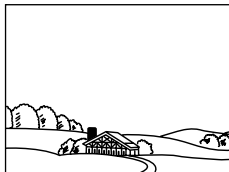
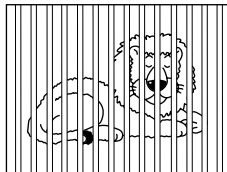
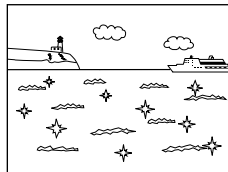
フォーカス表示

シャッターボタンを半押しすると、液晶モニター下部のフォーカス表示が、ピントの状態をお知らせします。

液晶モニター下部	状況
白色 ○ 点灯	ピントが合って固定されています。撮影できます。 （フォーカスモードが ［ワンショットAF］ の場合のみ表示されます。）
白色 ((○)) 点灯	動いているものにピントを合わせ続けています。撮影できます。 （フォーカスモードが ［コンティニュアスAF］ の場合のみ表示されます。）
赤色 ● 点灯	ピントが合いません。以下を確認してください。撮影はできます。 **撮りたいものに近づきすぎていませんか？** カメラ（鏡胴先端）から、ズーム広角側で50㎝以上、ズーム望遠側で2㍍以上離れたものにピントが合います。それより近くのものを撮影するときは、スーパーマクロモード、または、マクロモード（→ P.38、39）で撮影してください。 **オートフォーカスの苦手な被写体ではありませんか？** オートフォーカスの苦手な被写体だと、オートフォーカスではピント合わせができません。フォーカスロック撮影（→ P.56）、または、マニュアルフォーカス（手動によるピント合わせ）撮影（→ P.93）を行なってください。

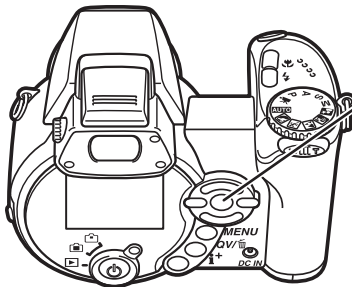
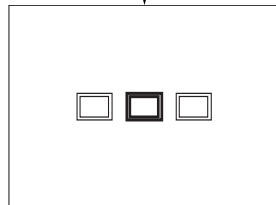
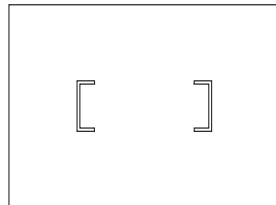
オートフォーカスの苦手な被写体

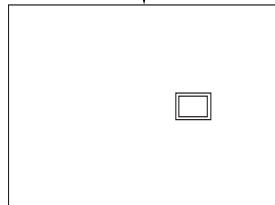
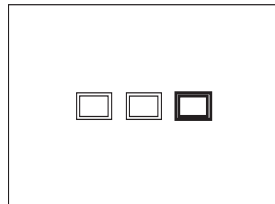
映像AF方式のピント合わせは被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。ピントが合わない場合は、画面右下に赤色の ● が点灯します。このような場合は、フォーカスロック撮影を行なうか（→ P.56）、または、マニュアルフォーカス（手動によるピント合わせ）で撮影してください（→ P.93）。

オートフォーカスの苦手な被写体

暗すぎるもの

青空や白壁などコントラストのないもの

フォーカスフレームの中に距離の異なるものが混じっているとき

太陽のように明るいものや、車のボディ、水面などきらきら輝いているもの

ローカルフォーカスフレームの選択

ワイドフォーカスフレーム［　］の中には、ピントを合わせるためのセンサー（ローカルフォーカスフレーム）が3つあります。この3つの中から、実際に使うフレームを1つ選択することができます。

1. 十字キー中央の実行ボタンを、約1秒間 押し続けます。

● ローカルフォーカスフレームが表示されます。

2. 左右のキーで、ピントを合わせたいフレームを選びます。

- 選んだフレームは青色で表示されます。
- フォーカスロック撮影には、中央のフレームを選ぶと便利です。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 選ばなかったフレームが消えます。

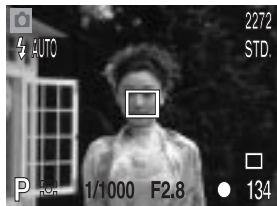
4. シャッターボタンを半押ししてピントを合わせた後、押し込んで撮影します。

- ピントが合うと、フレームは赤くなります。

- 再度十字キー中央の実行ボタンを約1秒押し続けると、ワイドフォーカスフレームに戻ります。
- デジタルズーム時（→ P.100）には、フレームを選択することはできません。

フォーカスロック撮影

ピント位置を一時的に固定して、その間に構図を変えることができます。

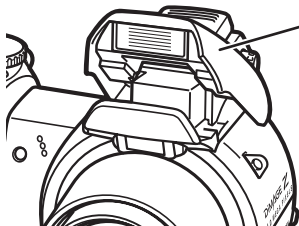
- 3つのローカルフォーカスフレームのうち、中央のフレームを選んでおくと便利です。

1. ピントを合わせたいものに、P.55～56で選んだフォーカスフレームを合わせてシャッターボタンを半押しします。

- ピントが合って固定されると、ローカルフォーカスフレームが赤くなります。画面右下には白色の ○ が点灯します。

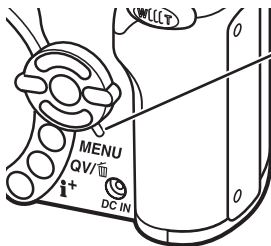
2. シャッターボタンを半押ししたまま、構図を変えます。

3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

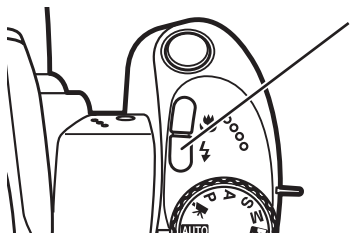
- ピントと同時に露出も固定されます（シャッター速度と絞り値が黒く反転します）。
- シャッターボタンから手を離すと、固定されたピント位置は解除されます。
- シーンセレクターで「スポーツ」を選択しているとき（→ P.36）、または、P, A, S, M各モード（→ P.62～66）でフォーカスモードに［コンティニュアスAF］を設定しているときは、フォーカスロックはできません。

フラッシュ撮影

フラッシュを使うときは、内蔵フラッシュを手で上げてください。内蔵フラッシュが上がっているときに、フラッシュモードボタンを押すと、フラッシュの光り方を変えることができます。

フラッシュを発光させないときは、内蔵フラッシュを手で押し下げてください。

フラッシュ表示

フラッシュ充電中はアクセスランプがオレンジ色ですばやく点滅します。
充電が完了すると、アクセスランプの点滅が止まります。充電が完了するのを待って撮影してください。

適正露出が得られたときは、撮影後、画面左上に OK が点灯します。

フラッシュモードを変えるには

内蔵フラッシュが上がっているときに、フラッシュモードボタンを押すと、フラッシュの光り方を変えることができます。
フラッシュモードボタンを押すごとに、次の順序でフラッシュの光り方が変わります（キーカスタマイズ（→ P.89）を初期設定の［フラッシュモード］に設定している場合）。

キーカスタマイズを［フラッシュモード］以外に設定している場合は、撮影モードメニューで変更できます（→ P.95）。

撮影モードダイヤルが、AUTO、P、、、、、位置のとき

暗いときなど必要なとき自動的に光ります。（自動発光）

人の目が赤く写るのを和らげます。必要なとき自動的に光ります。（赤目軽減自動発光）

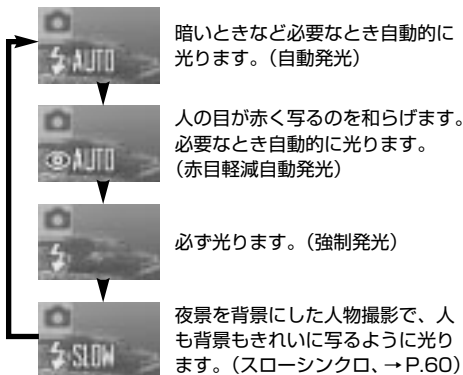
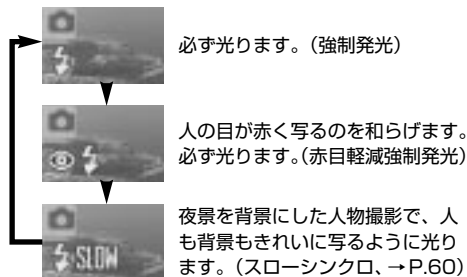
必ず光ります。（強制発光）

夜景を背景にした人物撮影で、人も背景もきれいに写るように光ります。（スローシンクロ、→P.60）

撮影モードダイヤルが、A、S、M位置のとき

必ず光ります。（強制発光）

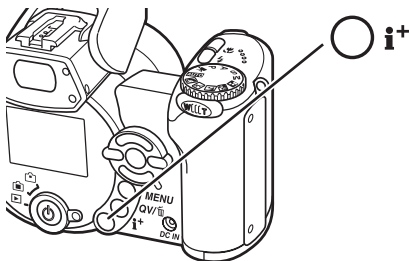
人の目が赤く写るのを和らげます。必ず光ります。（赤目軽減強制発光）

夜景を背景にした人物撮影で、人も背景もきれいに写るように光ります。（スローシンクロ、→P.60）

スローシンクロ撮影

夜景を背景にして記念撮影する場合、スローシンクロ撮影（シャッター速度の遅いフラッシュ撮影）をすると、人物も背景もきれいに撮ることができます。

フラッシュモードボタンを押してスローシンクロを選び、撮影します。

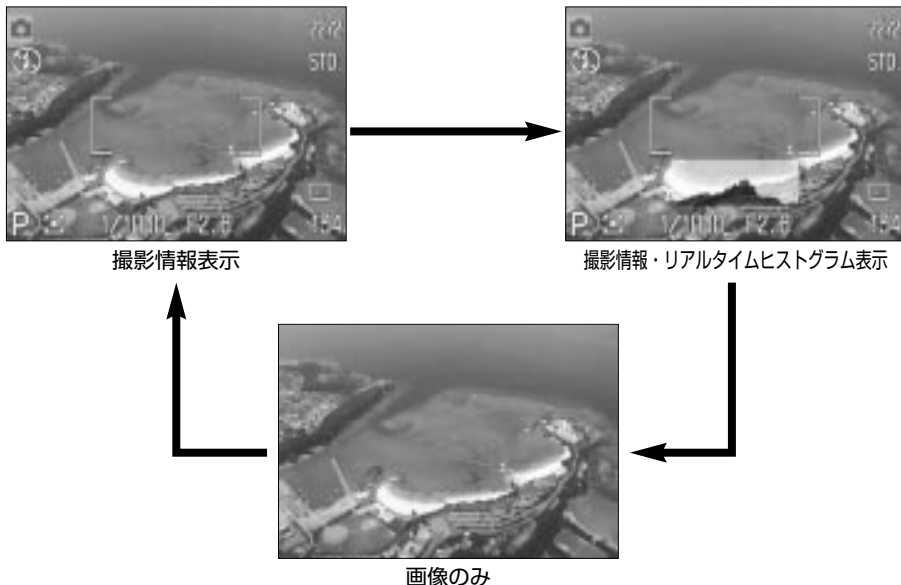
- シーンセレクターの「夜景ポートレート」と得られる効果は同じです（→ P.37）。
- スローシンクロ撮影時は、フラッシュはかならず赤目軽減発光になります。
- シャッター速度が遅くなりますので、手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。

画面表示の切り替え（撮影モード）

液晶モニター、または、ファインダーの表示内容を切り替えることができます。

表示切り替えボタンを押します。

- ボタンを押すたびに、液晶モニター、または、ファインダーの表示が、右ページの順で切り替わります。
- 動画撮影時（撮影開始前）も同様に切り替わります。

撮影情報表示

撮影情報・リアルタイムヒストグラム表示

画像のみ

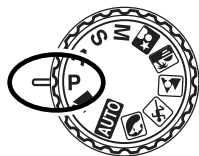
- 液晶モニターに表示される内容とファインダーに表示される内容は同じものです（液晶モニターとファインダーを同時に表示させることはできません）。
- 「画像のみ」の状態でも、警告表示（赤色の表示）とフォーカス表示（→ P.54）、日付写し込み表示（→ P.163）は現れます。また、フルオートシーンセレクター（→ P.32）も作動し、自動で選ばれたシーンの絵記号が表示されます。
- この使用説明書では、撮影情報表示の状態（左上図）で説明しています。
- ヒストグラムについては、118ページをご覧ください。
- このカメラでは、暗いところでも液晶モニターがよく見えるように、一定以下の暗さになるとモニター感度が自動的に上がります（モニター自動感度アップ機能）。

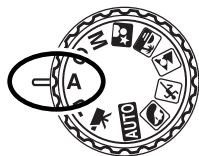
露出モード

同じシーン、同じ被写体でも、シャッター速度や絞り値を変えると写真の描写が変わります。露出モードを変えることで、シャッター速度と絞り値のどちらか一方、あるいは両方を自分で決めることができます。

P(プログラム)モード	シャッター速度と絞り値の両方が自動的に決まります。
A(絞り優先)モード	希望の絞り値を決めることができます。
S(シャッター速度優先)モード	希望のシャッター速度を決めることができます。→P.64
M(マニュアル)モード	希望のシャッター速度と絞り値を決めることができます。→P.65

● A、S、Mモードでは、フラッシュは自動発光しません。

P(プログラム)モード

シャッター速度と絞り値が自動的に決まります。シャッターチャンスに専念することができるので、スナップ写真など一般撮影に最適です。

A(絞り優先)モード

撮影者が希望の絞り値を決めることができます。絞りとは、レンズを通して入ってくる光の量を調整するもので、絞り値が変わると被写体の前後のピントの状態が変わり、背景をぼかしたり、くっきり写したりすることができます。

絞り値を2.8などに小さくすると、被写体の前後がぼけやすくなります(右ページ、写真左)。逆に8.0などに大きくすると、近くのものから遠くのものまでくっきりと写ります(右ページ、写真右)。

絞り値が小さいとき
（絞りを開けたとき）

絞り値が大きいとき
（絞りを絞り込んだとき）

1. 撮影モードダイヤルをAに合わせます。

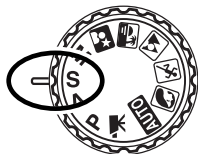
- 液晶モニターに絞り値が青色で表示されます。

2. 十字キーの上下で、希望の絞り値を選びます。

- 以下の範囲から選ぶことができます。
  広角側：2.8～8.0
  望遠側：3.7～8.0

十字キー上下で変更する、の意味

- 絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）とレンズを通る光の量が減少し、シャッター速度が遅くなります（手ぶれ警告 が表示されます）。三脚を使って撮影されることをおすすめします。
- シャッターボタンを半押ししたときにシャッター速度が赤くなる場合は、カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。白く表示される範囲内で絞り値を設定してください。
- 被写体の状況によっては、絞り値を変えても、それに連動してシャッター速度が変化しないことがあります。これは、表示されている以上に細かなシャッター速度の変化や撮像感度の調整（オート設定時のみ）によるもので、実際には適正露出になるように正確にカメラはコントロールされています。
- フラッシュを使用する場合、絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を小さめにして（開放側で）撮影することをおすすめします。

S(シャッター速度優先)モード

撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます。シャッター速度が変わると動いているものの写り方が変わります。
シャッター速度を1/1000秒などに速くすると、動いているものがくっきりと止まって写ります(写真左)。逆に1/15秒などに遅くすると、動いているものが流れるように写ります(写真右)。

シャッター速度が速いとき

シャッター速度が遅いとき

1. 撮影モードダイヤルをSに合わせます。

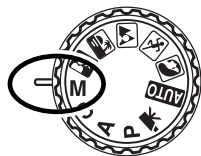
● 液晶モニターにシャッター速度が青色で表示されます。

2. 十字キーの上下で、希望のシャッター速度を選びます。

● 15秒〜1/1000秒の範囲から選ぶことができます。2″、4″ など「″」の文字が出ている場合は、それぞれ2秒、4秒を表します。

十字キー上下で変更する、の意味

- シャッターボタンを半押ししたときに絞り値が赤くなる場合は、カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。白く表示される範囲内でシャッター速度を設定してください。
- Sモードでは手ぶれ警告 は表示されません。
- シャッター速度が1秒以上の場合、露光(撮影)終了後に続けてノイズ軽減処理が行われます。処理中は「ノイズリダクション実行中」のメッセージが現れます。→ P.67
- タイム露光(長時間露光)撮影はMモードで行なってください。→ P.66
- 被写体の状況によっては、シャッター速度を変えても、それに連動して絞り値が変化しないことがあります。これは撮像感度の調整(オート設定時のみ)によるもので、実際には適正露出になるように正確にカメラはコントロールされています。

M(マニュアル)モード

Aモード、Sモードで説明した絞り値とシャッター速度の両方を、自由に選ぶことができます。絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、露出計を使って撮影するときなどに便利です。

1. 撮影モードダイヤルをMに合わせます。

2. 十字キーの上下で、希望のシャッター速度を選びます。

- 15秒〜1/1000秒の範囲から選ぶことができます。15秒の次には T(タイム露光撮影、→ P.66)が表示されます。

3. 十字キーの左右で、希望の絞り値を選びます。

- 絞り値は以下の範囲から選ぶことができます。
  広角側：2.8〜8.0
  望遠側：3.7〜8.0

十字キー左右で変更する、の意味

十字キー上下で変更する、の意味

露出モード(続き)

- Mモードでフラッシュを発光させない場合は、設定されたシャッター速度と絞り値に応じて画面の明るさが変化します(フルタイムAFを[あり]に設定している場合は、画面の明るさは変化しません)。そのまま撮影すると写真が大幅に露出オーバー/アンダーになる場合は、シャッターボタンを半押しするとシャッター速度と絞り値の両方が赤く点灯します。フラッシュを発光させる場合は、被写体が確認できるよう自動的に画面が明るくなります。
- シャッター速度が1秒以上の場合、露光(撮影)終了後に続けてノイズ軽減処理が行われます。処理中は「ノイズリダクション実行中」のメッセージが現れます。→P.67
- Mモードでは、撮像感度(→P.99)をオートにしていると、常にISO 100相当に固定されます。
- Mモードでは手ぶれ警告 は表示されません。
- Mモードでの露出補正(→P.68)はできません。

- フラッシュを使用する場合、AモードやMモードで絞り値を大きくする(絞りを絞り込む)と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を小さめにして(開放側で)撮影することをおすすめします。

タイム露光(長時間露光)撮影

1度シャッターボタンを押すと、シャッターが開いたままになり(最長30秒)、もう一度シャッターボタンを押すとシャッターが閉じられます。カメラを三脚に取り付けて撮影してください。Mモードでのみ撮影可能です。

1. Mモード撮影で、シャッター速度で「T」を選びます。

- 15秒からさらに十字キーの下キーを押してください。

2. シャッターボタンを押します。

- シャッターが開いたままになります。
- 露光(撮影)中は液晶モニターは消灯し、以下の画面が現れます。

- 30秒経過すると、自動的に撮影は終了します。

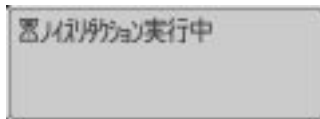
3. 必要な時間が経過したら、もう一度シャッターボタンを押します。

- シャッターが閉じます。

1秒以上の撮影を行なう場合の画面について

シャッター速度が1秒以上の場合、または、タイム露光撮影を行なった場合は、露光(撮影)終了後に続けてノイズ軽減処理(ノイズリダクション)が行われます。ノイズリダクション中(数秒〜30数秒程度、シャッター速度によって異なる)は、液晶モニターが消灯し、右のメッセージが現れます。この間は次の撮影はできません。

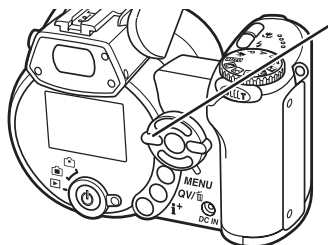
ノイズリダクション実行中

- ノイズリダクションをなしにすると、ノイズ軽減処理をせずに、すぐに次の撮影を行なうことができます。→ P.161

画像を明るくする・暗くする（露出補正）

撮影される画像を明るくしたり暗くしたりします。−2.0〜＋2.0の範囲で0.3段ごとに設定できます。
＋側にすると画像が明るくなります。白い被写体を白く表現するときや、黒い被写体をつぶさずに描写するときなどに使います。
−側にすると画像が暗くなります。黒い被写体を黒く表現するときなどに使います。

露出補正＋側

露出補正−側

● 撮影モードダイヤルが AUTO 位置のときは、露出補正はできません。

1. 十字キーの左右どちらかを1回押します。

● 画面に現在の設定値が表示されます。

2. 十字キーの左右で希望の数値を選びます。

● 右を押すと明るくなります（＋側に露出補正）。左を押すと暗くなります（−側に露出補正）。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 設定後、画面左下に数値が表示されます。

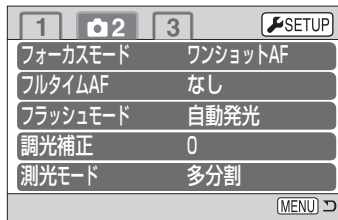
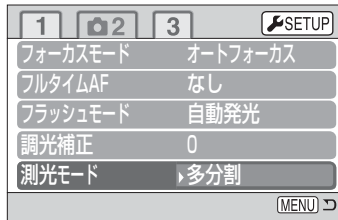
● 露出補正を解除するときは、同じ要領で±0に設定してください。

撮影モードメニュー

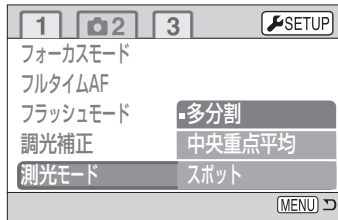
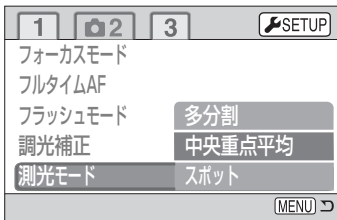
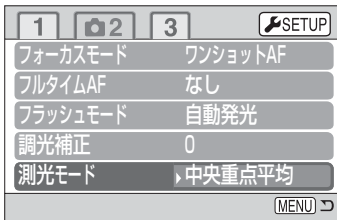
撮影モードダイヤルが、P、A、S、M位置のときにメニューボタンを押すと、72～73ページに示す設定が可能です。

メニュー設定のしかた

メニューの設定は、上下左右のキーと中央の実行ボタンで行ないます。

1. 左右のキーで、設定したい項目のあるタブ（1～3）を選びます。

2. 上下のキーで、項目（メニュー画面の左側に表示されているもの）の中から設定したいものを選びます。

3. 右のキーを押します。選ぶことのできる内容一覧が現れます。

4.上下のキーで、内容一覧から設定したいものを選びます。

1 2 3 SETUP
フォーカスモード
フルタイムAF
フラッシュモード 多分割
調光補正 中央重点平均
測光モード スポット
MENU

5.中央の実行ボタンを押して決定します。

この説明書では、以後、メニュー画面に対しての操作を以下のように表記します。

MENU →[2]→[測光モード]→【右側へ移動】→[中央重点平均]→ ● 実行

この表記は、以下に示す一連の操作を表したものです。

①メニューボタンを押す。
②左右キーで[2]を選ぶ。 ☞70ページ 操作**1.**
③上下キーで[測光モード]を選ぶ。 ☞70ページ 操作**2.**
④右キーで右側の項目に移動(選べる設定の一覧が現れる)。 ☞70ページ 操作**3.**
⑤上下キーで[中央重点平均]を選ぶ。 ☞71ページ 操作**4.**
⑥中央の[実行ボタン]を押して決定。 ☞71ページ 操作**5.**

1	
ドライブモード（→P.74）	[1コマ撮影]
	セルフタイマー
	連続撮影
	シャッターチャンス連写
	ブラケット撮影
画像サイズ（→P.81）	[2272×1704]
	1600×1200
	1280×960
	640×480
画質（→P.83）	ファイン
	[スタンダード]
	エコノミー
ホワイトバランス（→P.86）	カスタム設定
	カスタム呼び出し
	[AUTO]
	プリセット
キーカスタマイズ（→P.89）	[フラッシュモード]
	ドライブモード
	ホワイトバランス
	フォーカスモード
	カラーモード

※[　　　]で囲んだものは初期設定です。

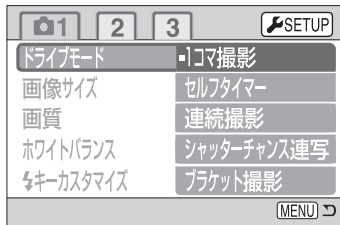
2	
フォーカスモード（→P.90）	[ワンショットAF]
	コンティニュアスAF
	マニュアルフォーカス
フルタイムAF（→P.94）	あり
	[なし]
フラッシュモード（→P.95）	[自動発光]
	赤目軽減自動発光
	強制発光
	赤目軽減強制発光
	スローシンクロ
調光補正（→P.96）	±2.0（1/3ステップ）[±0.0]
測光モード（→P.97）	[多分割]
	中央重点平均
	スポット

※[　　　]で囲んだものは初期設定です。

3	
撮像感度 (→ P.99)	ISO 400
	ISO 200
	ISO 100
	ISO 50
	[AUTO]
デジタルズーム (→ P.100)	あり
	[なし]
カラーモード (→ P.101)	[ナチュラルカラー]
	ビビッドカラー
	モノクロ
	セピア
シャープネス (→ P.102)	ハード(+)
	[標準]
	ソフト(−)
コントラスト (→ P.103)	強い(+)
	[標準]
	弱い(−)

※[　　　]で囲んだものは初期設定です。

ドライブモード

セルフタイマーや連続撮影などのいろいろな撮影ができます。以下の7つから選ぶことができます。

1コマ撮影：　シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。

セルフタイマー：　セルフタイマー撮影ができます。→ P.75

連続撮影：　シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影できます。→ P.76

UHS連続撮影：　シャッターボタンを押し続けている間、高速で連続して撮影できます。→ P.76

シャッターチャンス連写：　シャッターボタンを押し続けている間連続して撮影し、シャッターボタンを離したときからさかのぼって記録します。→ P.77

シャッターチャンスUHS連写：　シャッターボタンを押し続けている間高速で連続して撮影し、シャッターボタンを離したときからさかのぼって記録します。→ P.77

ブラケット(露出ずらし)撮影：　露出をずらした写真が自動的に3枚撮影できます。→ P.80

1コマ撮影

シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。初期設定は1コマ撮影です。

MENU →［1］→［ドライブモード］→【右側へ移動】→［1コマ撮影］→ ●実行→ **MENU**

セルフタイマー

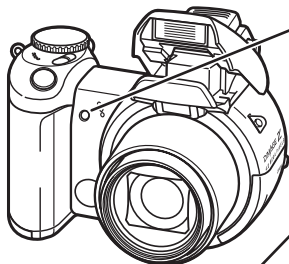
シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。撮影者も一緒に写真に入るときに便利です。

MENU →［1］→［ドライブモード］→【右側へ移動】→［セルフタイマー］→ ●実行→ **MENU**

1. 前ページの手順でセルフタイマーを選びます。

●画面にセルフタイマーの絵記号が表示されます。

2. 撮りたいものに[　　]を合わせ、構図を決めます。

3. 撮りたいものにピントが合っていることを確認してから、シャッターボタンを押します。

●セルフタイマーの作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅します。撮影直前には素早い点滅、そして点灯となり、撮影のタイミングをお知らせします。

●セルフタイマー動作中は、ランプと同様に音でもお知らせします。音を消すこともできます。→ P.167

●セルフタイマー動作中は、画面中央にセルフタイマーの絵記号と撮影までの残り秒数のカウントが表示されます。

●撮影後、セルフタイマーは解除されます。

●作動中のセルフタイマーを止めるには、ズームレバーを左右どちらかに動かしてください。

連続撮影・UHS*連続撮影

*UHS = Ultra High Speed（ウルトラハイスピード）の略

シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。連続撮影では、ワンショットAF時：最高毎秒約2.5コマ、コンティニュアスAF時：最高毎秒約1.5コマの撮影ができます。
UHS連続撮影では、毎秒約10コマの速度で、最高15コマまで連続して撮影できます。

MENU →［ 1］→［ドライブモード］→【右側へ移動】→［連続撮影］→ ● 実行で選択画面へ

1. 上記の手順で連続撮影を選びます。

● 連続撮影かUHS連続撮影かを選ぶ画面が表示されます。

連続撮影　　UHS連続撮影

2. 左右のキーでどちらかを選んで、実行ボタンを押します。

3. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

【連続撮影時の注意】

- フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
- ピント位置と露出は1コマ目で固定されます。ただし、露出モード P, A, S, M 各モードでフォーカスモードがコンティニュアスAF（→ P.91）のとき、または、シーンセレクターのスポーツモード（ → P.36）でフォーカスモードがオートフォーカスのときは、1コマごとにピント合わせが行われます（この場合でも露出は1コマ目で固定されます）。
- **カメラ内部のメモリー容量の関係上、連続で撮影できるコマ数は最大5コマです。**
- 日付写し込み（→ P.163）を行なっている場合は、連続撮影の速度は遅くなります。

【UHS連続撮影時の注意】

UHS連続撮影では、すべての画像データをいったんカメラ内部のメモリーに蓄積し、撮影完了後にデータをまとめてカードに書き込み（記録）します。よって、
- 撮影後、カードに書き込む時間が必要です。書き込み中は次の撮影はできません。
- **カメラ内部のメモリー容量の関係上、連続で撮影できる最大コマ数は15コマです。**

- 画像サイズは1280画素×960画素に固定されます。
- フラッシュ撮影はできません。自動的に発光禁止になります。
- ピント位置と露出は1コマ目で固定されます。
- UHS連続撮影時にはデジタルズーム（→ P.100）はできません。また、デジタルズーム時にUHS連続撮影に設定すると、デジタルズームは解除されます。
- 低速のシャッター速度での撮影はできません。Sモード（→ P.64）やMモード（→ P.65）で1/30秒より低速側のシャッター速度に設定していた場合、自動的に1/30秒に変更されます。
- 電池の容量が少ないとき（液晶モニターに赤色の が点灯している場合）は、UHS連続撮影はできません（シャッターは切れません）。
- UHS連続撮影の場合、他の撮影画像と比べると画質がやや劣化することがあります。
- 強い逆光下で撮影した場合、スミア（縦に伸びる光の帯）が発生したり、画面の一部が黒くつぶれたりすることがあります。これらの現象は画面で確認できます。Aモードで絞りを絞ると、このような現象を緩和させることができます。→ P.63

シャッターチャンス連写・シャッターチャンスUHS連写

シャッターボタンを押し続けている間連続して撮影が行われます。このときの撮影画像はカメラ内部のメモリーに一時保存されていき、シャッターを押し続けている間は最新の撮影画像を内部メモリーに上書きし続けます。シャッターボタンを離したら、その直前まで内部メモリーに一時保存されていた画像をカードに書き込み（記録）します。テニスやゴルフのフォームのチェックなど、過去にさかのぼって動きを追いかける、連続したシーンの撮影に効果的です。
シャッターチャンス連写では5コマ分（約2秒前）まで、シャッターチャンスUHS連写では12コマ分（約1.2秒前）までさかのぼって記録できます。

MENU → [📷1] → [ドライブモード] → 【右側へ移動】 → [シャッターチャンス連写] → ● 実行で選択画面へ

1. 上記の手順でシャッターチャンス連写を選びます。

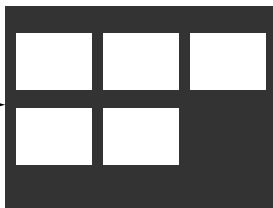
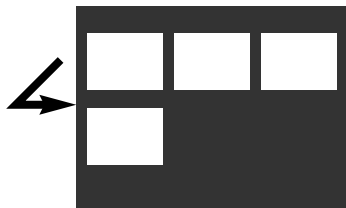
● 通常の連続撮影かUHS連続撮影かを選ぶ画面が表示されます。

シャッターチャンス連写

シャッターチャンスUHS連写

2. 左右のキーでどちらかを選んで、実行ボタンを押します。

3. シャッターボタンを押し続け、記録を終了したいタイミングで離します。

● 撮影後、さかのぼって記録される画像が順に小さく表示されます（シャッターチャンス連写では5コマ、シャッターチャンスUHS連写では12コマ）。この表示中は、カメラを操作できません。

【シャッターチャンス連写時の注意】

- フラッシュ撮影はできません。自動的に発光禁止になります。
- ピント位置と露出は1コマ目で固定されます。ただし、露出モードP, A, S, M各モードでフォーカスモードがコンティニュアスAF（→ P.91）のとき、または、シーンセレクターのスポーツモード（ → P.36）でフォーカスモードがオートフォーカスのときは、1コマごとにピント合わせが行われます（この場合でも露出は1コマ目で固定されます）。
- 低速のシャッター速度での撮影はできません。Sモード（→ P.64）やMモード（→ P.65）で1/30秒より低速側のシャッター速度に設定していた場合、自動的に1/30秒に変更されます。
- 電池の容量が少ないとき（液晶モニターに赤色の が点灯している場合）は、シャッターチャンス連写、シャッターチャンスUHS連写はできません（シャッターは切れません）。
- シャッターチャンス連写時は日付写し込み（→ P.163）はできません（シャッターチャンスUHS連写時は日付写し込みできます）。

【シャッターチャンスUHS連写時の注意（上記注意事項に加えて）】

- 画像サイズは1280×960画素に固定されます。
- ピント位置と露出は1コマ目で固定されます。
- デジタルズーム（→ P.100）はできません。また、デジタルズーム時にシャッターチャンスUHS連写に設定すると、デジタルズームは解除されます。
- 他の撮影画像と比べると画質がやや劣化することがあります。
- 強い逆光下で撮影した場合、スミア（縦に伸びる光の帯）が発生したり、画面の一部が黒くつぶれたりすることがあります。これらの現象は画面で確認できます。Aモードで絞りを絞ると、このような現象を緩和させることができます。→ P.63

ブラケット撮影

露出をずらした写真が自動的に3枚できます。シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。

MENU →［📷1］→［ドライブモード］→【右側へ移動】→［ブラケット撮影］→ ● 実行で選択画面へ

1. 上記の手順でブラケット撮影を選びます。

● 露出ずらし量を設定する画面が表示されます。

2. 左右のキーでずらし量を設定します。

● ±0.3、±0.5、±1.0のいずれかを選びます。±1.0だとずらし量が多くなり、±0.3だと小さくなります。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 画面右下にブラケットの絵記号と撮影枚数を表す３が表示されます。

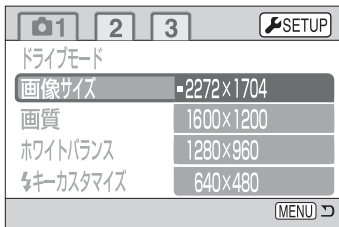
4. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

● ±0 → −（露出アンダー）側 → ＋（露出オーバー）側、の順に撮影されます。

● 途中で指を離すとブラケット撮影は終了します。

● フラッシュ撮影はできません。自動的に発光禁止になります。
● 基準値（±0）とピント位置は1枚目を撮影するときに固定されます。露出補正（→ P.68）により、基準値をあらかじめずらしておくことも可能です。ただし、露出モードP, A, S, M各モードでフォーカスモードがコンティニュアスAF（→ P.91）のとき、または、シーンセレクターのスポーツモード（ → P.36）でフォーカスモードがオートフォーカスのときは、1コマごとにピント合わせが行われます（この場合でも、基準となる露出（±0）は1コマ目で固定されます）。
● 撮影中にカードの空きがなくなると、その後の撮影はされずにブラケット撮影は途中で終了します。

画像サイズ

画像の大きさを指定することができます。4通りの中から選ぶことができます。

MENU →［ 1］→［画像サイズ］→【右側へ移動】→［希望のサイズ］→ ● 実行 → **MENU**

● 画面右上に、選んだ画像サイズが、大きい方の数値で表示されます。たとえば、1280×960を選んだ場合は、1280と表示されます。

画像サイズ（続き）

デジタル画像は縦横に細かく分割されて表現されています。例えば画像サイズ2272×1704画素の場合、画像は横に2272、縦に1704に分割され、その1点1点（画素）にそれぞれ色が付き、全体として1つの写真になっています。画像サイズとは、このように並んでいる画素の数（記録画素数）を表し、画素 または ピクセル、ドットといった単位で表されます。

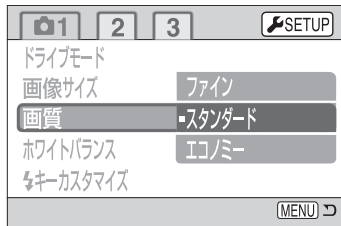
画像をプリント（印刷）する場合は、大きなサイズで撮影しておくほどきれいにプリント（印刷）できますが、1枚当たりのファイルサイズ（データ量）が大きくなりますので、カードに記録できる（撮影できる）枚数は少なくなります。ご使用のカード容量や用途に応じて画像サイズをお選びください。

このカメラでは、画像サイズを以下の4通りの中から選ぶことができます。

2272×1704	このカメラの最大の画像サイズです。パソコンに取り込んで編集するときや、大きくプリントする(※1)場合におすすめします。約385万画素の画像が撮影できます。 (※1) 2L版（178㎜×127㎜）～ A4（297㎜×210㎜）程度
1600×1200	パソコンに取り込んで編集するときや、プリントする(※2)場合におすすめします。約190万画素の画像が撮影できます。 (※2) L版（127㎜×89㎜）～ A5（210㎜×148㎜）程度
1280×960	枚数を多く撮るときに便利です。約120万画素の画像が撮影できます。
640×480	1枚のカードに最も多くの枚数を撮影することができます。ファイルサイズが小さいので、Eメールに添付するときやホームページ用の画像として最適です。

ここでいうプリントとは、印刷解像度150dpi～300dpiの場合を指しています。

画質

画質（画像の圧縮率）を指定することができます。3通りの中から選ぶことができます。

MENU →［ 1］→［画質］→【右側へ移動】→［希望の画質］→ ● 実行 → **MENU**

● 液晶モニター右上に、選んだ画質が表示されます。
ファイン → FINE、スタンダード → STD.、エコノミー → ECON.と表示されます。

画像の圧縮率によって画質が決まります。画像を圧縮しないとファイルサイズ（84ページの表参照）が大きくなるため、デジタルカメラでは画像を圧縮して記録する方法が一般的です。
エコノミー → スタンダード → ファインの順に高画質になりますが、高画質になるほど1枚当たりのファイルサイズが大きくなりますので、カードに記録できる（撮影できる）枚数は少なくなります。

表示	ファイル型式	説明
ファイン （FINE）	JPEG （圧縮率 小）	画像がJPEG（ジェイペグ）型式で圧縮されて記録されます。圧縮率が大きくなるほどファイルサイズは小さくなり、1枚のカードに記録できる枚数が増えます。 JPEG（ジェイペグ）型式の圧縮は、圧縮率が大きいほど画質が劣化します。いったん劣化した画像の画質をパソコン等で復元することはできませんので、特に後で画像の加工や編集を行なう場合、画質の設定は慎重に行なってください。一般的な目安は以下の通りです。 プリント（印刷）する場合　→ ファイン、スタンダード 画像を加工する場合　→ ファイン Eメールに添付する場合など → エコノミー
スタンダード （STD.）	JPEG （圧縮率 中）	
エコノミー （ECON.）	JPEG （圧縮率 大）	

ファイルサイズと撮影画像数について

画像サイズと画質によってファイルサイズが決まり、ファイルサイズと使用しているカードの容量によって1枚のカードに記録できる撮影画像数が決まります。ファイルサイズの目安と付属のSDメモリーカード使用時の撮影画像数は以下の通りです。

- 下記の値は被写体やカードによって異なるため、あくまで目安とお考えください。
- 同じ容量のカードでも、メーカーや種類、撮影条件が異なると、撮影枚数など数値が異なることがあります。

ファイルサイズ（静止画像）

	2272×1704	1600×1200	1280×960	640×480
エコノミー	約520KB	約280KB	約190KB	約80KB
スタンダード	約1000KB	約440KB	約300KB	約120KB
ファイン	約1940KB	約770KB	約550KB	約160KB

ファイルサイズ（動画）

フレームレート	800×600	640×480	320×240	160×120
30 fps	——	約1070KB/秒	約680KB/秒	約170KB/秒
15 fps	約1070KB/秒	約540KB/秒	約350KB/秒	約95KB/秒

16MB SDメモリーカード使用時の撮影画像数（静止画像）

	2272×1704	1600×1200	1280×960	640×480
エコノミー	約27枚	約47枚	約69枚	約150枚
スタンダード	約14枚	約27枚	約39枚	約100枚
ファイン	約7枚	約14枚	約22枚	約69枚

16MB SDメモリーカード使用時の撮影画像数（動画）

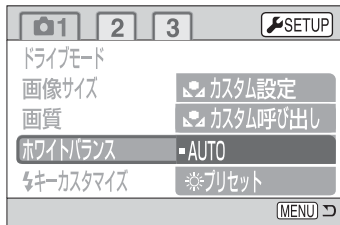
フレームレート	800×600	640×480	320×240	160×120
30 fps	——	約13秒	約21秒	約1分22秒
15 fps	約13秒	約25秒	約41秒	約2分30秒

【参考①】128MB SDメモリーカード（市販品）使用時の撮影画像数（動画）

フレームレート	800×600	640×480	320×240	160×120
30 fps	——	約1分56秒	約3分2秒	約11分52秒
15 fps	約1分56秒	約3分43秒	約5分56秒	約21分45秒

【参考②】256MB SDメモリーカード（市販品）使用時の撮影画像数（動画）

フレームレート	800×600	640×480	320×240	160×120
30 fps	——	約3分52秒	約6分2秒	約23分38秒
15 fps	約3分52秒	約7分25秒	約11分49秒	約43分21秒

ホワイトバランス

光源によって被写体の色は変化します。特に白いものは、光源によって青っぽく写ったり黄色っぽく写ったりします。これを白く写るように調整するのがホワイトバランスです。オートにすると自動的に調整されますが、意図的に選択したり、独自の設定を登録したりすることもできます。

オート(AUTO)　：ホワイトバランスは自動的に調整されます。
プリセット　：昼光、曇天、白熱灯、蛍光灯、フラッシュ光の5つから光源を選ぶことができます。
カスタム　：独自のホワイトバランス設定を登録することができます。

オート(AUTO)

ホワイトバランスは自動的に調整されます。初期設定はオート(AUTO)です。

- オートの場合、液晶モニターやファインダーには表示は現れません。(ヒストグラム表示には**WB AUTO**と表されます。)

プリセット

被写体を照射している光源を選ぶことができます。オート(AUTO)で思うような色が出ないときにお使いください。

MENU → [1] → [ホワイトバランス] → 【右側へ移動】 → [プリセット] → ● 実行で選択画面へ

1. 上記の手順でプリセットを選びます。

- プリセットされている光源を選ぶ画面が表示されます。

2. 十字キーの左右で、希望の光源を選びます。

- 昼光（晴れた明るい屋外）
- 曇天（曇った屋外）
- 白熱灯（タングステン光）
- 蛍光灯
- フラッシュ光

3. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

● 画面に選んだ光源が表示されます。

● 水銀灯やナトリウムランプの場合、光源の特性上それらだけでは正確なホワイトバランスは得られません。フラッシュの使用をおすすめします。

カスタムホワイトバランス

複数の光源で照明されている場合などで、より正確に白さを表現したいときは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。

【設定する】

MENU → [📷1] → [ホワイトバランス] → 【右側へ移動】 → [カスタム設定] → ● 実行で設定画面へ

1. 上記の手順でカスタム設定を選びます。

● カスタムホワイトバランスの設定画面が現れます。

2. 白く写したいものが画面いっぱいになるような構図にして、十字キー中央の実行ボタンを押し込みます。

- ピントを合わせる必要はありません。
- シャッター音がしますが撮影はされません。ここで画面に入れたものが白くなるようなホワイトバランスに設定されます。
- 設定後は、カスタムホワイトバランスでの撮影になります。

- この操作で設定されたカスタムホワイトバランスは、次に同じ操作で別のカスタムホワイトバランスが設定されるまで有効です（カメラの電源を切ってもキャンセルされません）。

【設定したカスタムホワイトバランスを呼び出す】

MENU →［1］→［ホワイトバランス］→【右側へ移動】→［カスタム呼び出し］→ ● 実行 → MENU

上記の手順でカスタム呼び出しを選びます。

- 画面にカスタムホワイトバランスの絵記号が現れます。

キーカスタマイズ

よく使う機能をフラッシュモードボタンに割り当てることができます。メニュー画面を表示して操作する必要がなく、設定をすばやく変更できます。どの項目をフラッシュモードボタンで設定変更できるようにするかをここで選びます。

MENU →［1］→［キーカスタマイズ］→【右側へ移動】→［希望の項目］→ ● 実行 → **MENU**

上記の手順で、フラッシュモードボタンで設定を変更可能にする項目を選びます。

- フラッシュモードボタンを押すたびに、以下の順で設定が変わります。
- 以下の順序で右端の次にフラッシュモードボタンを押すと、ふたたび左端の設定にもどります。
  たとえば、下記ドライブモードの場合、［ブラケット撮影］の次にフラッシュモードボタンを押すと、［1コマ撮影］にもどります。

フラッシュモード（内蔵フラッシュを手で上げてください）

撮影モードダイヤルが、P、AUTO、、、、、位置のとき

自動発光 → 赤目軽減自動発光 → 強制発光 → スローシンクロ

撮影モードダイヤルが、A、S、M 位置のとき

強制発光 → 赤目軽減強制発光 → スローシンクロ

ドライブモード（↓↑は、十字キーの左右で選択）

1コマ撮影 → セルフタイマー撮影 → 連続撮影 → シャッターチャンス連写 → ブラケット撮影

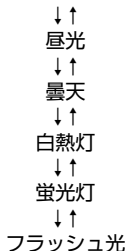
連続撮影 ↓↑ UHS連続撮影

シャッターチャンス連写 ↓↑ シャッターチャンスUHS連写

ブラケット撮影 ↓↑ ずらし量（設定）

<u>ホワイトバランス</u>（↓↑は、十字キーの左右で選択）

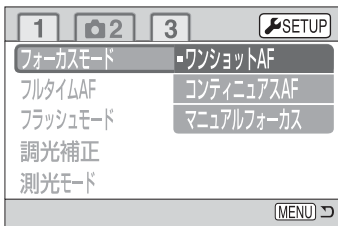
WB AUTO → プリセット → カスタム設定 → カスタム呼び出し

↓↑
昼光
↓↑
曇天
↓↑
白熱灯
↓↑
蛍光灯
↓↑
フラッシュ光

<u>フォーカスモード</u>（☞ 詳細は下記）

ワンショットAF → コンティニュアスAF → マニュアルフォーカス

<u>カラーモード</u>（☞ 詳細は99ページ）

ナチュラルカラー（Natural） → ビビッドカラー（VIVID） → 白黒（BW） → セピア（SEPIA）

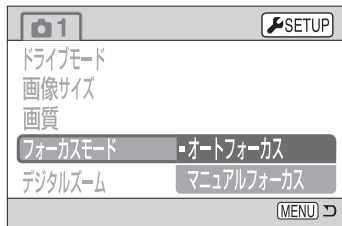
フォーカスモード

<u>撮影モードダイヤルが、P、A、S、M位置のとき</u>

自動でピントを合わせるオートフォーカスか、手動によるピント合わせのマニュアルフォーカスかを選ぶことができます。

また、オートフォーカスでのピントの合わせ方として、ワンショットAF*とコンティニュアスAF*を選択できます。

*AF = Auto Focus（オートフォーカス）の略

MENU →［📷2］→［フォーカスモード］→【右側へ移動】→［希望のモード］→ ● 実行 → MENU

撮影モードダイヤルが、[アイコン]、[アイコン]、[アイコン]、[アイコン]、[アイコン]位置のとき

自動でピントを合わせるオートフォーカスか、手動によるピント合わせのマニュアルフォーカスかを選ぶことができます。

フォーカスモードメニューは［1］タブに表示されます（→ P.45）。

MENU →［1］→［フォーカスモード］→【右側へ移動】→［希望のモード］→ ● 実行 → **MENU**

ワンショットAF

シャッターボタンを半押しするとピント合わせが行われ、ピントが合うとピント位置はそこで固定されます。静止している被写体の撮影に適しています。初期設定はワンショットAFです。

コンティニュアスAF

シャッターボタンを半押ししている間中、ピントを合わせ続けます。動いている被写体の撮影に便利です。

- ワイドフォーカスフレーム設定時（→ P.53、55、56）は、ピント位置を表す赤いセンサーは表示されません。
- コンティニュアスAFでも、激しく動く被写体にはピントを合わせることができません。
- 連続撮影（→ P.76）、ブラケット撮影（→ P.80）、シャッターチャンス連写（→ P.77）でもコンティニュアスAFが使用できます。

フォーカス表示

シャッターボタンを半押しすると、液晶モニター下部のフォーカス表示が、ピントの状態をお知らせします。
ワンショットAFとコンティニュアスAFとでは、フォーカス表示が異なります。

ワンショットAF	○ 白色	ピントが合って固定されています。
	● 赤色	ピントが合っていません。
コンティニュアスAF	((○)) 白色	ピントが合っています。被写体の動きに合わせてピント位置が変わります。
	● 赤色	ピントが合っていません。

● コンティニュアスAFでは、フォーカス表示 ((○)) が現れた場合でも、撮影前に液晶モニター、または、ファインダーでピントが合っている(撮りたいものがはっきりと見えている)ことを確認されることをおすすめします。

マニュアルフォーカス(手動によるピント合わせ)

MENU →[📷2]→[フォーカスモード]→【右側へ移動】→[マニュアルフォーカス]→ ● 実行 → **MENU**

1. 上記の手順でマニュアルフォーカスを選びます。

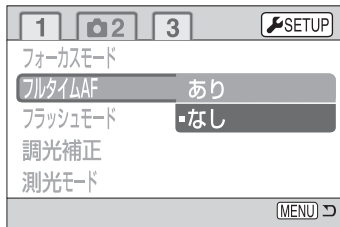
- マニュアルフォーカス画面(画面右下にマニュアルフォーカス Manual Focus を意味する **MF** が現れ、ピント合わせの目安のバーグラフが表示されます)が現れます。

画面中央付近が拡大表示されていることを示す絵記号

2. 十字キーの上下でピントを合わせます。

- 十字キーの上下いずれかを1回押すと、画面中央付近が約2.5倍に拡大表示され、ピントの状況を見やすくします(約4秒間操作しないでいると拡大表示は解除されます)。
- バーグラフは目安です。画面上に写したいものが最もはっきりと見えるように、上下の十字キーで調整してください。

- 露出モードA、S、Mモード時は、十字キー中央の実行ボタンを押すたびに、十字キー上下の働きが、「MFのピント合わせ」と「シャッター速度設定(Aモード時は絞り値設定)」とで切り替わります(左図はMモード時)。
- スーパーマクロモードやマクロモード時(→P.38、39)もマニュアルフォーカスでのピント合わせができます。

フルタイムAF

フルタイムAFを機能させると、シャッターボタンを半押ししなくても、フォーカスフレーム内のものに常にピントが合い続けます。

MENU →［2］→［フルタイムAF］→【右側へ移動】→［あり または なし］→ ● 実行 → **MENU**

フルタイムAF　あり

シャッターボタンを半押ししなくても、フォーカスフレーム内のものに常にピントが合い続けます。フルタイムAF　なしの場合と比べて、より速いピント合わせが可能です。

- フルタイムAF なしと比べて、電池の寿命がやや短くなることがあります。

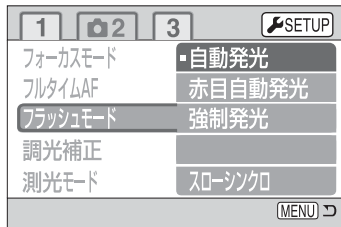
フルタイムAF　なし

シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。電池を節約したいときや、静かに撮影したい場合に便利です。初期設定は フルタイムAF なし です。

- 動画モード時、シーンセレクターのスポーツ（）選択時、AUTO および シーンセレクター、、、位置でスーパーマクロ/マクロモードに設定したときは、ここでの設定に関係なく、フルタイムAF ありになります。

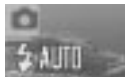
フラッシュモード

1 ／ 2 ／ 3 ／ SETUP

フォーカスモード
フルタイムAF
フラッシュモード　■自動発光 ／ 赤目自動発光 ／ 強制発光 ／ スローシンクロ
調光補正
測光モード

MENU

フラッシュの発光モード（光り方）を選びます。フラッシュが下がっているときでも選択できます。撮影モードダイヤルの位置によって選べるモードが異なります。

MENU → [2] → [フラッシュモード] → 【右側へ移動】 → [希望のモード] → ● 実行 → **MENU**

撮影モードダイヤル P 位置のとき

自動発光：暗いときなど必要なとき自動的に光ります。

赤目（軽減）自動発光：人の目が赤く写るのを和らげます。必要なとき自動的に光ります。

強制発光：必ず光ります。

スローシンクロ：夜景を背景にした人物撮影で、人も背景もきれいに写るように光ります。

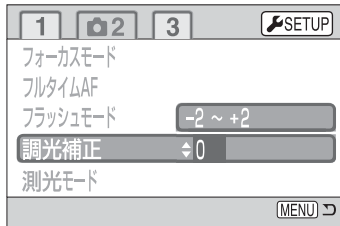
撮影モードダイヤル A、S、M 位置のとき

強制発光：必ず光ります。

赤目（軽減）強制発光：人の目が赤く写るのを和らげます。必ず光ります。

スローシンクロ：夜景を背景にした人物撮影で、人も背景もきれいに写るように光ります。

● 外付けフラッシュ（プログラムフラッシュ5600HS（D）/3600HS（D）/2500（D））装着時は、赤目（軽減）自動発光、および、赤目（軽減）強制発光は選ぶことができません。

調光補正

露出補正(→ P.68)では画面全体の明るさが調整されますが、フラッシュが発光する場合は、露出補正とは別に、フラッシュの発光量だけを調整することができます。露出補正と同じく、−2.0〜+2.0の範囲で0.3段ごとに設定できます。

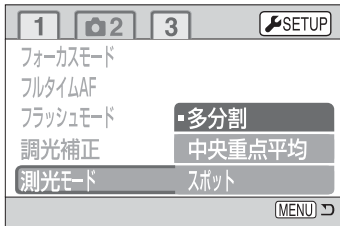
MENU →［📷2］→［調光補正］→【右側へ移動】→［十字キーの上下で設定］→ ● 実行 → **MENU**

● 0以外に設定すると、設定後、画面に絵記号と設定値が表示されます。

露出補正と調光補正の違い

露出補正では、シャッター速度・絞り値・撮像感度(オートの場合)が変化することによって補正が行われます。フラッシュが発光する場合は、それに加えてフラッシュの発光量も同時に変化します。
一方調光補正では、フラッシュの発光量のみが変化します。写真全体に対するフラッシュ光の影響を相対的にコントロールすることができます。例えばフラッシュ光を少なめに仕上げたいときは、調光補正をややアンダー側(−側)に設定しておき、同時に露出補正をオーバー側(＋側)にかけて全体の明るさを調整する、といった使い方ができます。

● フラッシュの光量には限りがあるため、被写体がフラッシュ光の最大到達距離(調光距離)付近にあるときは、オーバー側の効果が出ないことがあります。同様に近接撮影ではアンダー側の効果が出ないことがあります。

測光モード

測光モード（カメラが被写体の明るさを測る方法）を以下の3つの中から選ぶことができます。

多分割測光：　画面全体を細かく分割して測光します。
中央重点平均測光：　画面の中央部に重点を置きながら、全体の明るさを平均的に測光します。
スポット測光：　中央部のスポット測光サークル内のみで測光を行ないます。

MENU →［2］→［測光モード］→【右側へ移動】→［希望の設定］→ ● 実行→ **MENU**

応用撮影編 動画撮影編

多分割測光

画面全体を細かく分割（256分割）して測光を行ないます。被写体までの距離情報やホワイトバランスからの色情報とも連動して、被写体の明るさを正確に把握します。人の目で見た感じに一番近く撮れる測光モードで、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。初期設定は多分割測光です。

中央重点平均測光

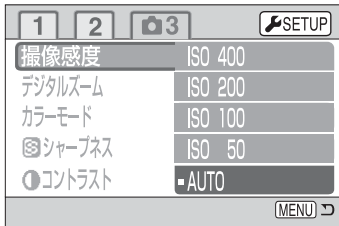
画面の中央部に重点を置きながら、画面全体の明るさを平均的に測光します。逆光時や被写体が画面中央にない場合などは、露出補正が必要になります。→ P.68

スポット測光

画面中央部にスポット測光サークルが現れ、このサークル内のみで測光を行ないます。コントラストの大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光するのに適しています。

- 測光したい部分が画面中央にないときは、フォーカスロック撮影を行なってください。→ P.56

撮像感度

1 | 2 | 3 | SETUP
撮像感度 ISO 400
デジタルズーム ISO 200
カラーモード ISO 100
シャープネス ISO 50
コントラスト ・AUTO
MENU

撮影時の感度を選択することができます。感度はISO（写真フィルムの感度の単位）の数値に換算して表されます。オート（AUTO）に設定すると、明るさや状況（フラッシュ発光の有無など）に応じて自動的に感度が調整されます。暗い場所での撮影やフラッシュ光の到達距離を伸ばしたいときには、感度を上げると有効ですが、ノイズが出る場合があります。初期設定はオート（AUTO）です。

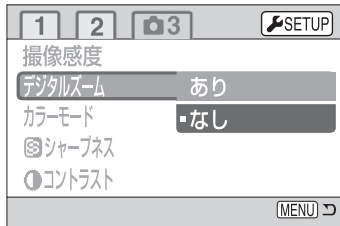
MENU → [3] → [撮像感度] → 【右側へ移動】 → [希望の設定] → ● 実行 → **MENU**

上記の手順で撮像感度を選びます。

- 感度は、オート（AUTO）、ISO 50、ISO 100、ISO 200、ISO 400 から選ぶことができます。

- オート（AUTO）の場合、画面に表示は現れません。撮像感度は ISO 50〜200の範囲で自動的に設定されます。Mモード時（→ P.65）には ISO 100で固定されます。
- オート（AUTO）以外を設定した場合は、画面に ISOと数値が表示されます。

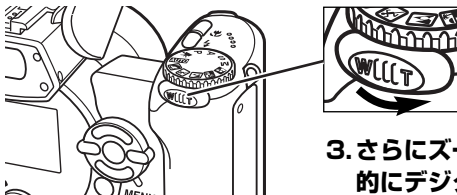
撮像感度を変更すると、フラッシュの調光距離（フラッシュ光の届く距離）は以下の通りになります。

撮像感度（フィルム換算値）	フラッシュ調光距離（鏡胴先端から）	
	ズーム広角側	ズーム望遠側
オート（AUTO）	0.16〜6.0メートル	1.2〜4.5メートル
ISO 50	0.16〜3.0メートル	1.2〜2.2メートル
ISO 100	0.16〜4.2メートル	1.2〜3.2メートル
ISO 200	0.16〜6.0メートル	1.2〜4.5メートル
ISO 400	0.16〜8.5メートル	1.2〜6.4メートル

デジタルズーム

通常のズーム（光学ズーム）に加えて、さらに画像を最大4倍にまで拡大することができます。
撮影モードダイヤルが、AUTO、、、、、 位置のときは、デジタルズームメニューは ［1］タブに表示されます（→P.45）。

MENU →［3］→［デジタルズーム］→【右側へ移動】→［あり または なし］→ ● 実行→ MENU

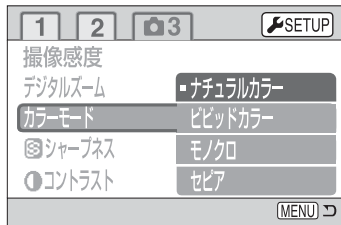
操作方法

1. 上記の手順でデジタルズーム ありを選びます。

2. ズームレバーを右（T側）に動かして、最も望遠側にズームさせます。

3. さらにズームレバーを右（T側）に動かし続けると、自動的にデジタルズームになり、画像がさらに4倍まで拡大されます。

- 1.1倍から4.0倍まで、0.1倍ごとに拡大されます。元に戻すにはズームレバーを左（W側）へ動かしてください。レバー操作直後にズーム表示がおおよそのズーム位置を表示します。
- デジタルズーム時には、液晶モニターに黄色で現在の倍率が表示されます。

- デジタルズームは、拡大すればするほど画質は劣化します。ただしこのカメラでは画像補間が行われますので、画像サイズは変わりません。

カラーモード

撮影する画像の色を、ナチュラル、ビビッド、モノクロ、セピアの中から選ぶことができます。

ナチュラルカラー：　通常のカラー画像として記録されます。初期設定はナチュラルカラーです。

ビビッドカラー：　カラー画像ですが、より色が鮮やかに再現されるように、彩度とコントラストが調整されます。

モノクロ：　白黒画像として記録されます。

セピア：　セピア調の画像として記録されます。

- 彩度が高い被写体の場合、ビビッドカラーにすると再現できる限界を超えてしまい、階調が表現されないことがあります。
- モノクロ、セピアに設定してもファイルサイズはナチュラルカラーと同じです。

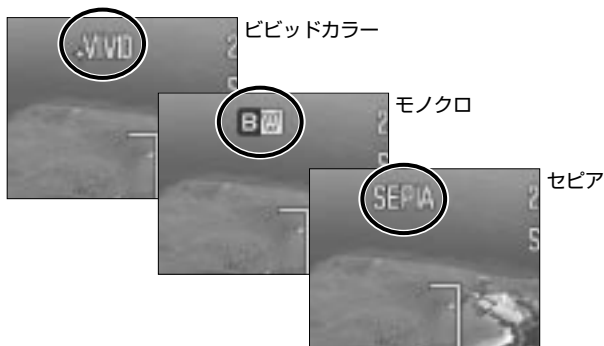
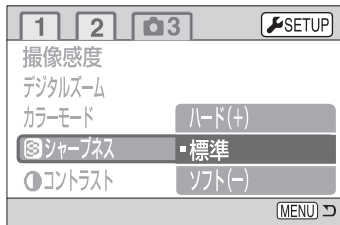
MENU → [3] → [カラーモード] → 【右側へ移動】 → [希望の設定] → ●実行 → **MENU**

上記の手順で希望のカラーモードを選びます。

- ナチュラルカラー以外を選択した場合、画面上部に選んだ設定が表示されます。

ビビッドカラー

モノクロ

セピア

シャープネス

撮影する画像のシャープネス（鮮鋭度）を調整することができます。3段階から選択することができます。

ハード（＋）：輪郭が明確に表現され、くっきりとした鮮明な画像になります。

標準：標準的な鮮明さの画像になります。初期設定は標準です。

ソフト（−）：輪郭のやわらかな画像になります。

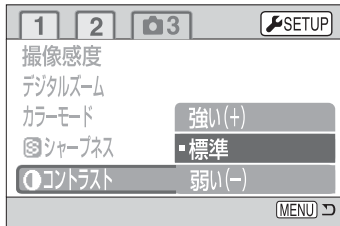
● JPEG圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べると、より画像の劣化を押さえることができます。

MENU → [3] → [シャープネス] → 【右側へ移動】 → [希望の設定] → ● 実行 → **MENU**

上記の手順で希望のシャープネスを選びます。

● 標準以外を選択した場合、画面に選んだ設定が表示されます。

シャープネス　ハード（＋）設定時

コントラスト

撮影する画像のコントラスト(明暗差)を調整することができます。3段階から選択することができます。

強い（＋）：　コントラストが強くなります。メリハリの効いたくっきりした画像になります。

標準：　標準的なコントラストの画像になります。初期設定は標準です。

弱い（−）：　コントラストが弱くなります。白い部分が飛んだり黒い部分がつぶれたりすることが少なくなります。

● JPEG圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べると、より画像の劣化を押さえることができます。

応用撮影編　動画撮影編

MENU →［3］→［コントラスト］→【右側へ移動】→［希望の設定］→ ● 実行→ **MENU**

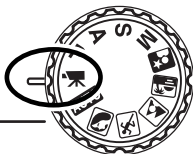
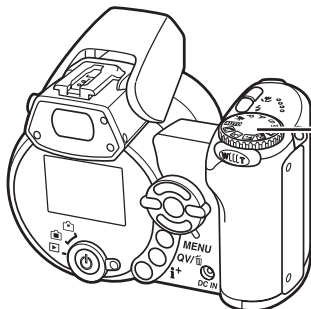
上記の手順で希望のコントラストを選びます。

● 標準以外を選択した場合、画面に選んだ設定が表示されます。

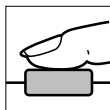
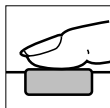
コントラスト　強い（＋）設定時

● シャープネス、コントラスト共に標準以外を選択した場合は、画面に両者の絵記号が並んで表示されます。

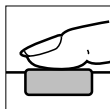
動画撮影（詳細）

メニュー画面で、画像サイズ（4通り）やフレームレート（2通り）、撮影中のAFのあり/なし等を変更できます。さまざまな設定ができますので、TVでの鑑賞、DVD等での保存からEメールの添付用など、用途に合わせた動画撮影が可能です。

1. 撮影モードダイヤルを 動画 に合わせます。

- 画面右上に画像サイズとフレームレート、右下に撮影可能な残り時間が表示されます。

- 画面右下の撮影可能な残り時間は目安の値です。被写体によっては実際の撮影時間と異なる場合があります。

2. シャッターボタンを半押しします。

- ピントが合うと、画面右下に白い○（フォーカス表示）が点灯します。

3. そのままシャッターボタンを押し込んで動画撮影を開始します。

- 撮影中は ●Rec が表示され、残り時間が減っていきます。

4. 撮影を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

- 残り時間が0になったときは、シャッターボタンを再度押さなくても自動的に撮影が終了します。

ズームについて

- 動画撮影開始前、動画撮影中いずれの場合も、光学ズーム および デジタルズーム操作ができます。
- 動画撮影中の光学ズーム操作については、動画撮影メニューであり/なしを選べます。
  （撮影中に光学ズーム操作を行なうと、レンズの駆動音も録音されます。）

ピントについて

- 動画撮影中のオートフォーカス動作については、動画撮影メニューであり/なしを選べます。
  （撮影中AFありにすると、AFの動作音が録音されることがあります。）
- マクロ撮影も行なえます。動画撮影開始前のピント合わせではマニュアルフォーカスも可能です。

その他の動画撮影前に可能な設定

- 露出補正（十字キーの左右で設定可能）
- 画像サイズ（→ P.107）、フレームレート（→ P.108）、光学ズームの有無（→ P.109）、ホワイトバランス（→ P.109）、ナイトムービーの有無（→ P.110）、動画撮影中のAFの有無（→ P.110）、カラーモード（→ P.112）（動画撮影メニューで設定可能）

その他の動画撮影時に固定される設定

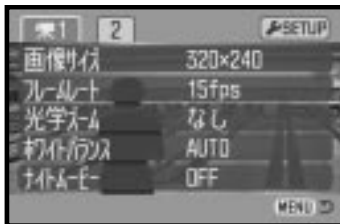
- 動画撮影時には、以下の機能は固定されます。変更はできません。
  フォーカスエリア（ワイドフォーカスフレーム）、露出モード（Pモード）、測光モード（多分割）、撮像感度（オート）、ファイル形式（Motion JPEG / MOV）
- 以下の機能は、動画撮影時には使用できません。
  フラッシュ、シーンセレクター、シャープネス、コントラスト、日付写し込み

- 電池の容量が少ないとき（液晶モニターに赤色の[電池マーク]が点灯している場合）は、動画撮影はできません。
  （「電池が少ないので撮影できません」というメッセージが表示されます。）
- 暗い場所で撮影する場合に、画面を見やすくすることができます（ナイトムービー機能 → P.110）。

> カードへの記録速度の関係上、カードによっては、カード容量に残りがあっても途中で撮影が終了してしまうことがあります。**特に、画像サイズ800×600、または、画像サイズ320×240以上でフレームレート30fpsの設定で動画撮影する場合は、データ転送速度10MB/秒以上のSDメモリーカードのご使用をおすすめします。**

動画撮影モードメニュー

撮影モードダイヤルが動画撮影モード位置 にあるときにメニューボタンを押すと、以下の設定が可能です。操作方法は撮影モードメニューと同じです。→ P.70

- ここでの画像サイズ、ホワイトバランス、カラーモードの各設定は、動画のみに影響します。(静止画)撮影モードでの設定には影響しません(カスタム設定したホワイトバランスは、静止画と動画とで共通です)。

1	
画像サイズ (→ P.107)	800×600
	640×480
	[320×240]
	160×120
フレームレート (→ P.108)	30 fps
	[15 fps]
光学ズーム (→ P.109)	あり
	[なし]
ホワイトバランス (→ P.109)	カスタム設定
	カスタム呼び出し
	[AUTO]
	プリセット
ナイトムービー (→ P.110)	ON
	[OFF]

※[　　　]で囲んだものは初期設定です。

2	
フォーカスモード (→ P.110)	[撮影中AFあり]
	撮影中AFなし
	マニュアルフォーカス
カラーモード (→ P.112)	[ナチュラル]
	ビビッド
	モノクロ
	セピア

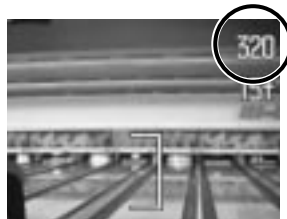
※[　　　]で囲んだものは初期設定です。

画像サイズ(動画撮影メニュー)

動画の大きさを指定することができます。4通りの中から選ぶことができます。

MENU →[🎥1]→[画像サイズ]→【右側へ移動】→[希望のサイズ]→ ● 実行→ MENU

● 画面右上に、選んだ画像サイズが、大きい方の数値で表示されます。たとえば、320×240を選んだ場合は、320と表示されます。

● 800×600を選んだ場合は、フレームレートが15fpsに固定されます。変更できません。

フレームレート（動画撮影メニュー）

動画は、1枚1枚の静止画像を連続して再生することで、動きのある絵になっています。この静止画像の1枚1枚を「フレーム」といいます。フレームレートは、1秒当たりに取り込む（撮影する）フレーム数のことで、2通りの中から選ぶことができます。
フレームレートが大きくなるほど、より動きの滑らかな動画になりますが、ファイルサイズは大きくなります。

fps = Frame per Secondの略。1秒当たりのフレーム数のこと。

MENU → [1] → [フレームレート] → 【右側へ移動】 → [希望の数値] → ● 実行 → **MENU**

- 画面右上、画像サイズの下に、選んだフレームレートが表示されます。
- 画像サイズに800×600を選んだときは、フレームレートを変更できません（15fpsで固定されます）。

画像サイズ800×600、または、画像サイズ320×240以上でフレームレート30fpsの設定で動画撮影する場合は、データ転送速度10MB/秒以上のSDメモリーカードのご使用をおすすめします。

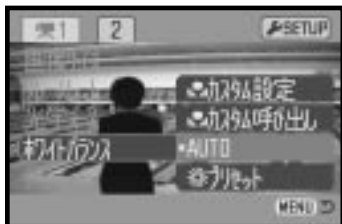
光学ズーム（動画撮影メニュー）

動画撮影中に、光学ズーム操作を可能にするかしないかを選べます。

● 動画撮影中に光学ズーム操作を行うと、レンズの駆動音も録音されます。このメニューで光学ズーム［なし］を選ぶか、撮影開始前にあらかじめズーム操作しておき、撮影中は光学ズーム操作をしない方法をおすすめします。

MENU →［1］→［光学ズーム］→【右側へ移動】→［あり または なし］→ ● 実行 → MENU

ホワイトバランス（動画撮影メニュー）

動画のホワイトバランスを選ぶことができます。

● プリセットの選び方やカスタムホワイトバランスの設定のしかたは、撮影モードメニューのホワイトバランスと同様です。→P.86

MENU →［1］→［ホワイトバランス］→【右側へ移動】→［プリセット］→ ● 実行で選択画面へ

MENU →［1］→［ホワイトバランス］→【右側へ移動】→［カスタム設定］→ ● 実行で設定画面へ

ナイトムービー（動画撮影メニュー）

暗い場所で動画撮影を行なうと、被写体が暗く見にくくなります。ナイトムービーを [ON] にして感度を上げると、暗い場所でもモニター画面や撮影画像が見やすくなります。

●ナイトムービーをONにすると、暗い場面ではノイズが増加し、多少ざらついた感じになることがあります。

MENU →［1］→［ナイトムービー］→【右側へ移動】→［ONまたはOFF］→ ● 実行→ MENU

フォーカスモード（動画撮影メニュー）

動画撮影中のフォーカスモードを選ぶことができます。

撮影中AFあり：動画撮影中も常にオートフォーカスが作動し、ピントを合わせ続けます。

撮影中AFなし：ピントは動画撮影開始時の位置で固定されます。撮影中はオートフォーカスは働きません。

マニュアルフォーカス：動画撮影開始前のピント合わせを手動で行うことができます。撮影中のピントはその位置で固定されます。

MENU →［2］→［フォーカスモード］→【右側へ移動】→［希望の設定］→ ● 実行→ MENU

画面中央付近が拡大表示されていることを示す絵記号

マニュアルフォーカスを選んだときは、十字キーの上下で動画撮影開始前のピントを合わせます。

- 十字キーの上下いずれかを1回押すと、画面中央付近が約2.5倍に拡大表示され、ピントの状況を見やすくします（約4秒間操作しないでいると拡大表示は解除されます）。
- バーグラフは目安です。画面上に写したいものが最もはっきりと見えるように、上下の十字キーで調整してください。

- ［撮影中AFあり］を選ぶと、オートフォーカスの動作音が録音される場合があります。そのときは、［撮影中AFなし］に設定してください。

カラーモード(動画撮影メニュー)

撮影する動画の色を、ナチュラル、ビビッド、モノクロ、セピアの中から選ぶことができます。

●各設定の意味は、撮影モードメニューのカラーモードと同様です。→ P.101

MENU →[2]→[カラーモード]→【右側へ移動】→[希望の設定]→●実行→ MENU

再生編

静止画や動画の再生（撮った画像/動画を画面で見る）について説明してあります。
またメニュー設定で、画像をまとめて消去したり、動画の不要部分を消去したり、一定間隔で自動再生させたり、画像のコピーやメール添付用画像の作成も行なえます。